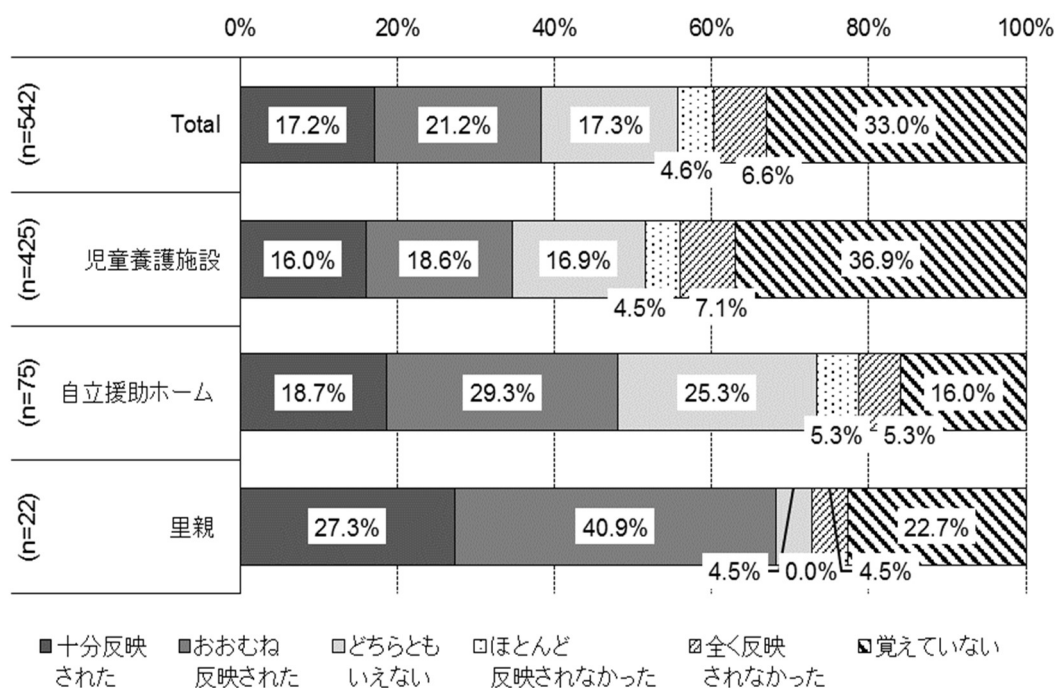
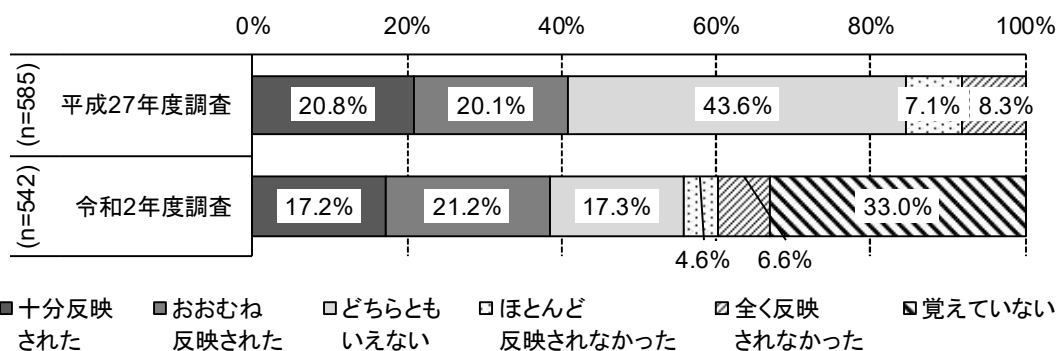


図表 130 入所の際に気持ち・意向は反映されたか（施設等の種類別）



前回調査と比較すると、「ほとんど反映されなかった（4.6%）」と「全く反映されなかった（6.6%）」を合わせた割合は 11.2%で 4.2 ポイント減少している。なお、今回調査では、「覚えていない」を新たに追加している。

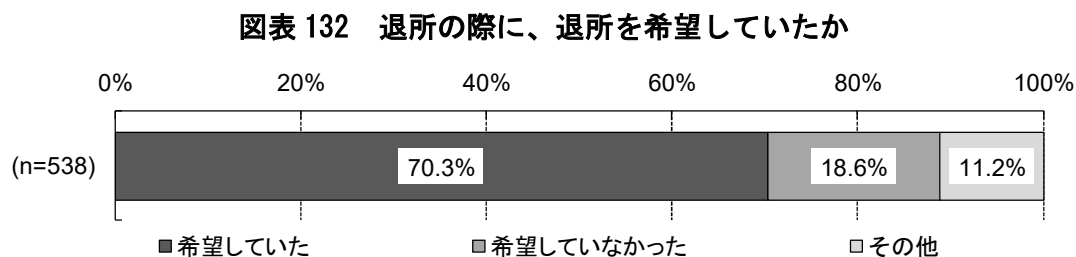
図表 131 入所の際に気持ち・意向は反映されたか（前回調査との比較）



（注）今回調査では、「覚えていない」を追加したずねた。

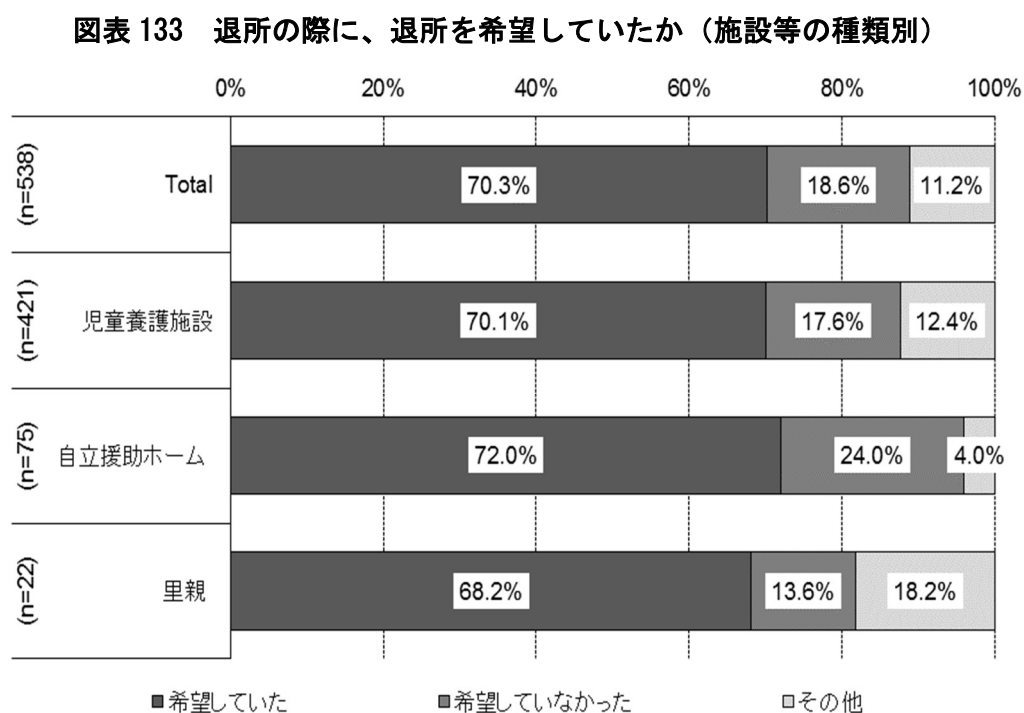
（３）退所の際に、退所を希望していたか

「希望していた」の割合が最も高く 70.3%となっている。次いで、「希望していなかった（18.6%）」、「その他（11.2%）」となっている。



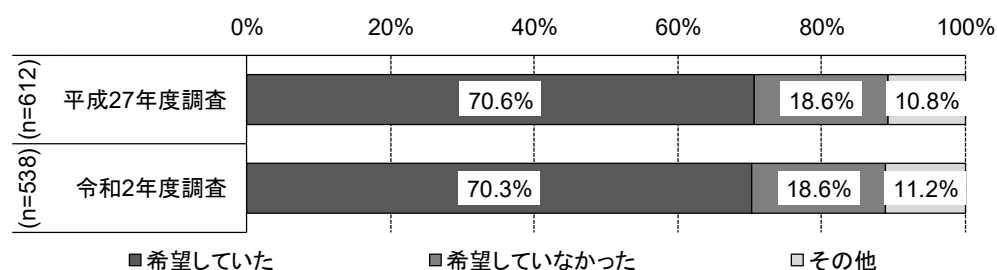
（注）「その他」として、「原則 18 歳で退所するものと思っていた」、「年齢で自動的に退所」、「どちらでもない」、「進学のための退所」、「自主退所を迫られた」、「問題を起こしてしまい退所」などが挙げられた。

施設の種類別にみると、いずれも「希望していた」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 70.1%、「自立援助ホーム」では 72.0%、「里親」では 68.2%となっている。



前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。

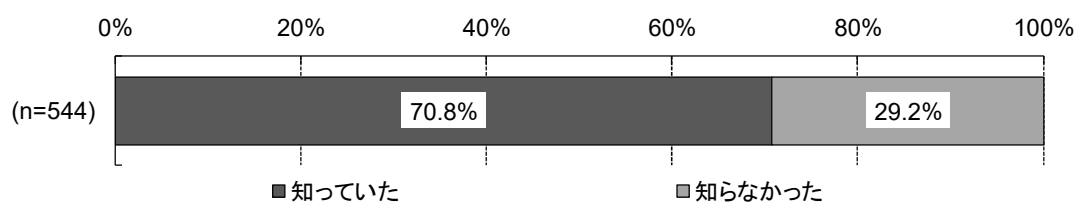
図表 134 退所の際に、退所を希望していたか（前回調査との比較）



（４）措置延長制度の認知度

「知っていた」の割合が最も高く 70.8%となっている。次いで、「知らなかった (29.2%)」となっている。

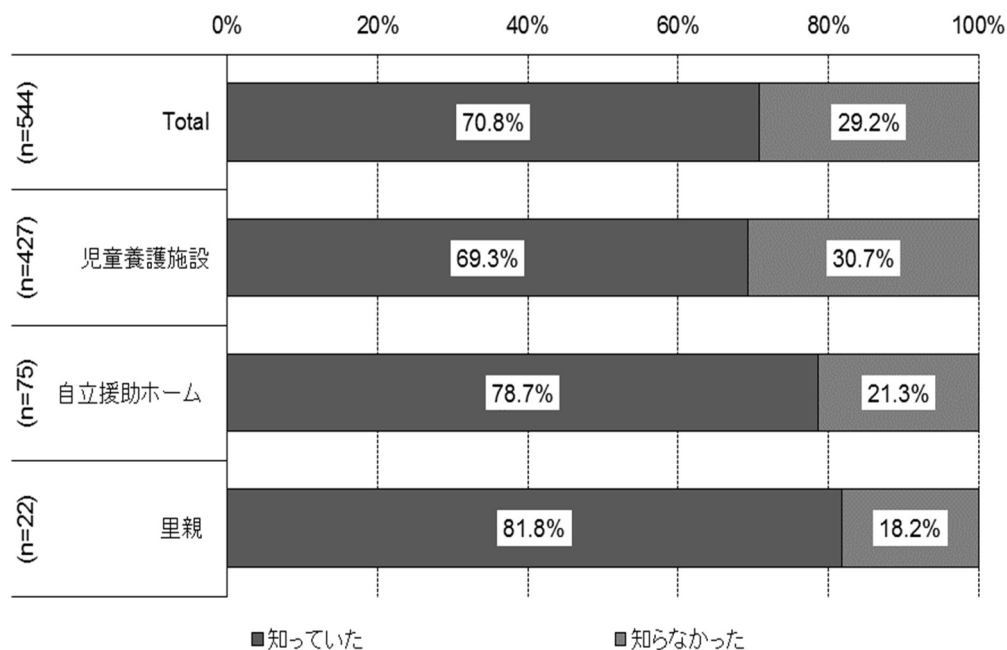
図表 135 措置延長制度の認知度



（注）設問文は「18 歳を過ぎても場合によっては措置が延長される制度があることを知っていましたか？」とたずねた。

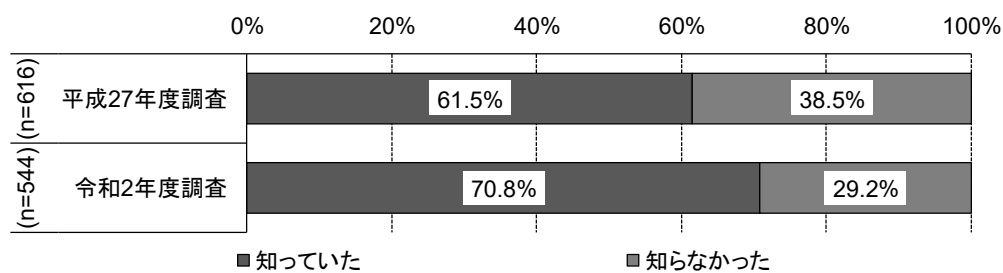
施設の種類別にみると、いずれも「知っていた」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 69.3%、「自立援助ホーム」では 78.7%、「里親」では 81.8%となっている。

図表 136 措置延長制度の認知度（施設等の種類別）



前回調査と比較すると、「知っていた」と回答した割合は、61.5%から 70.8%と 9.3 ポイント増加している。

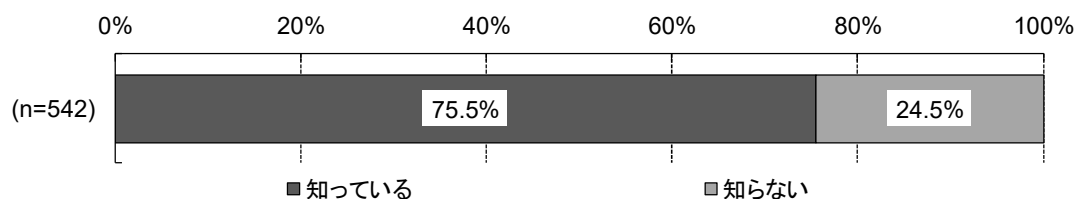
図表 137 措置延長制度の認知度（前回調査との比較）



（５）自立支援コーディネーターや、ジョブ・トレーナー、自立支援相談員の認知度

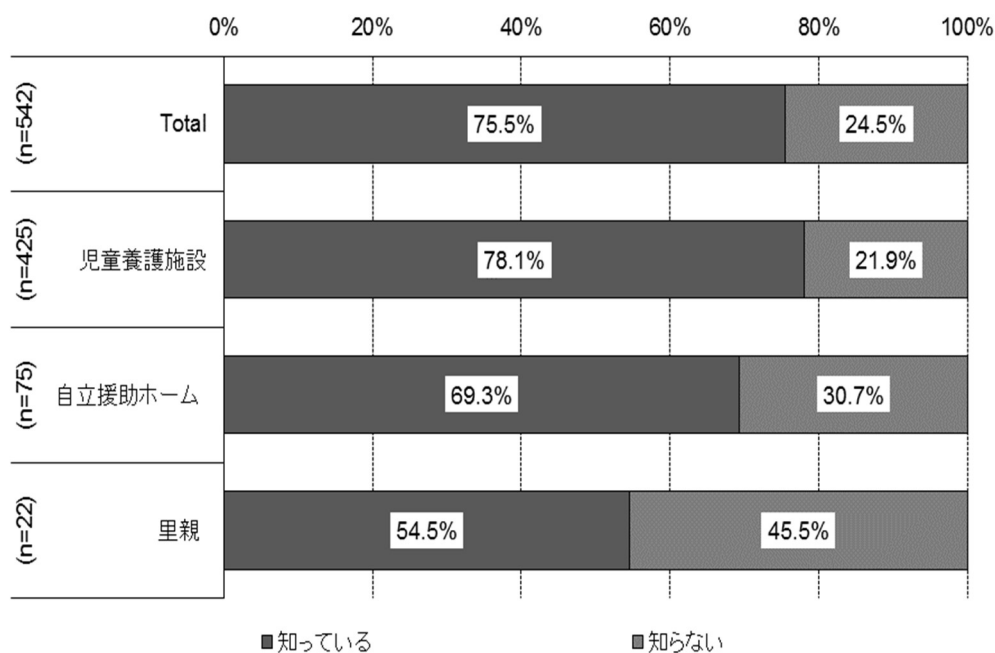
「知っている」の割合が最も高く 75.5%となっている。次いで、「知らない（24.5%）」となっている。

図表 138 自立支援コーディネーター、ジョブ・トレーナー、自立支援相談員の認知度



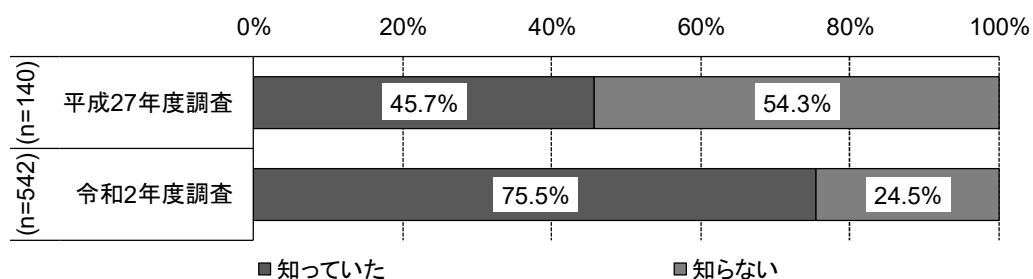
施設の種別別にみると、いずれも「知っている」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 78.1%、「自立援助ホーム」では 69.3%、「里親」では 54.5%となっている。

図表 139 自立支援コーディネーター、ジョブ・トレーナー、自立支援相談員の認知度（施設等の種別別）



前回調査と比較すると、「知っていた」と回答した割合は、45.7%から 75.5%と 29.8 ポイント増加している。

図表 140 自立支援コーディネーター、ジョブ・トレーナー、自立支援相談員の認知度(前回調査との比較)



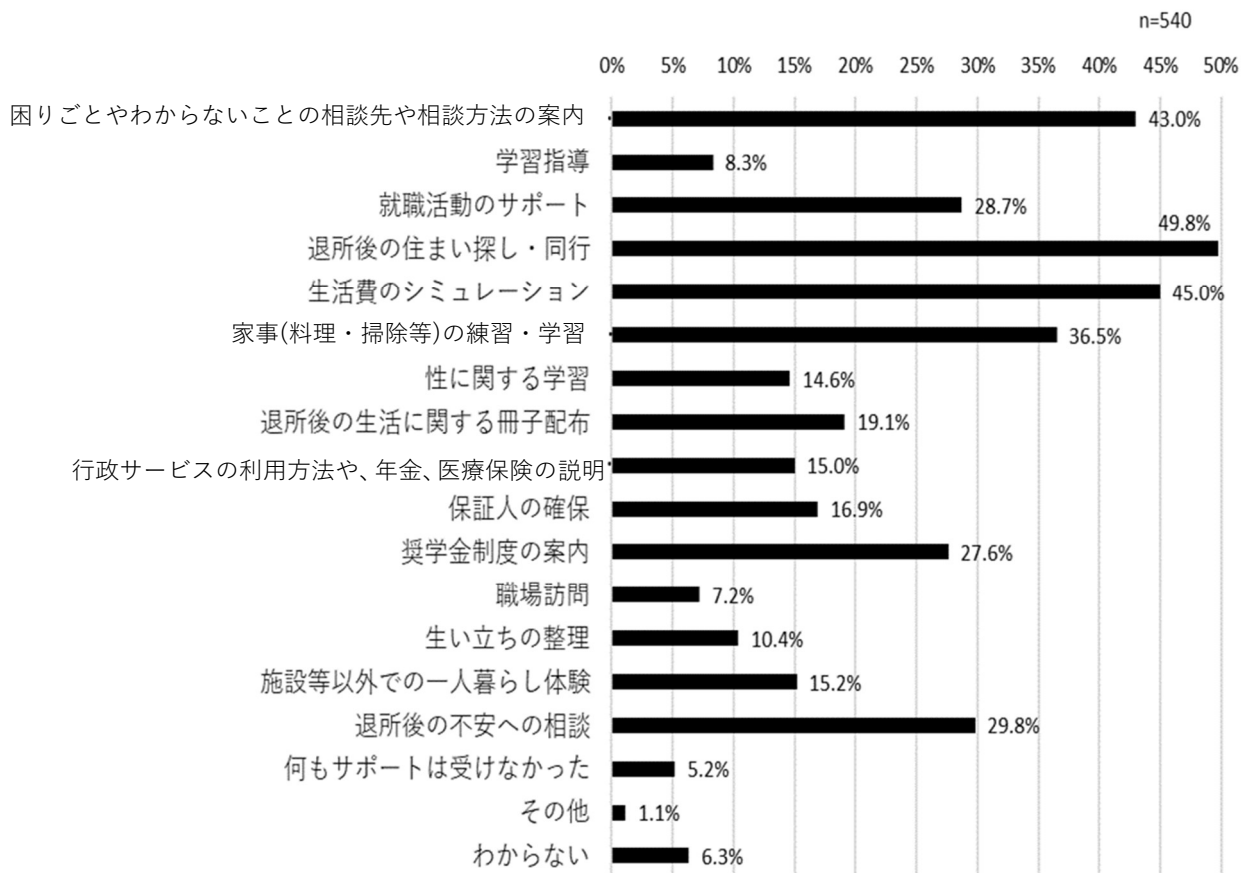
(注) 前回調査では、児童養護施設のうち自立支援コーディネーター配置施設、及び自立援助ホームのうちジョブ・トレーナー配置施設を退所した人のみ抽出し集計。

(6) 退所前に施設等から受けた支援

① 退所前に施設等から受けた支援

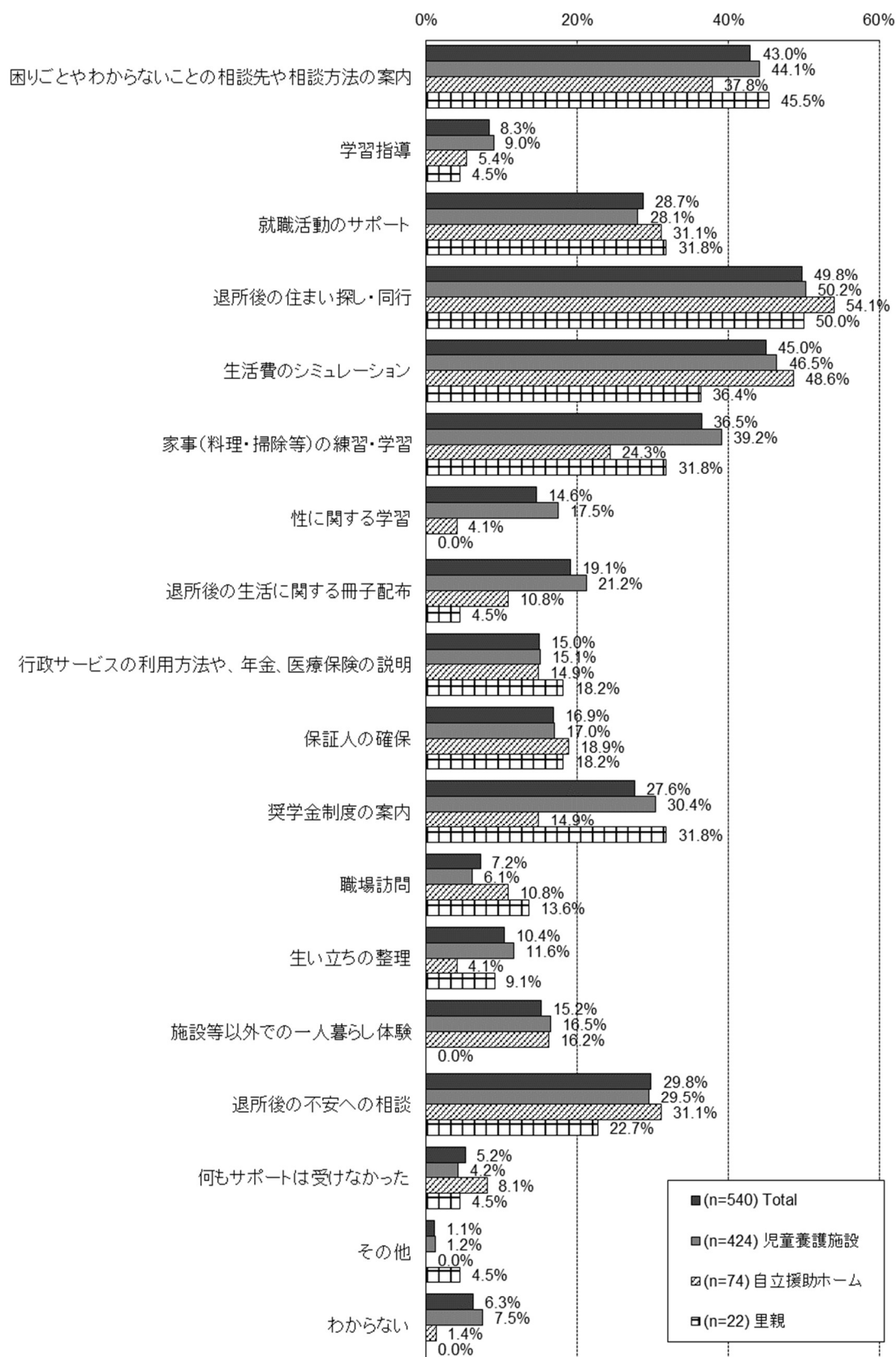
「退所後の住まい探し・同行」の割合が最も高く 49.8%となっている。次いで、「生活費のシミュレーション (45.0%)」、「困りごとやわからないことの相談先や相談方法の案内 (43.0%)」となっている。

図表 141 退所前に施設等から受けた支援（複数回答）



施設の種別別にみると、いずれも「退所後の住まい探し・同行」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 50.2%、「自立援助ホーム」では 54.1%、「里親」では 50.0%となっている。

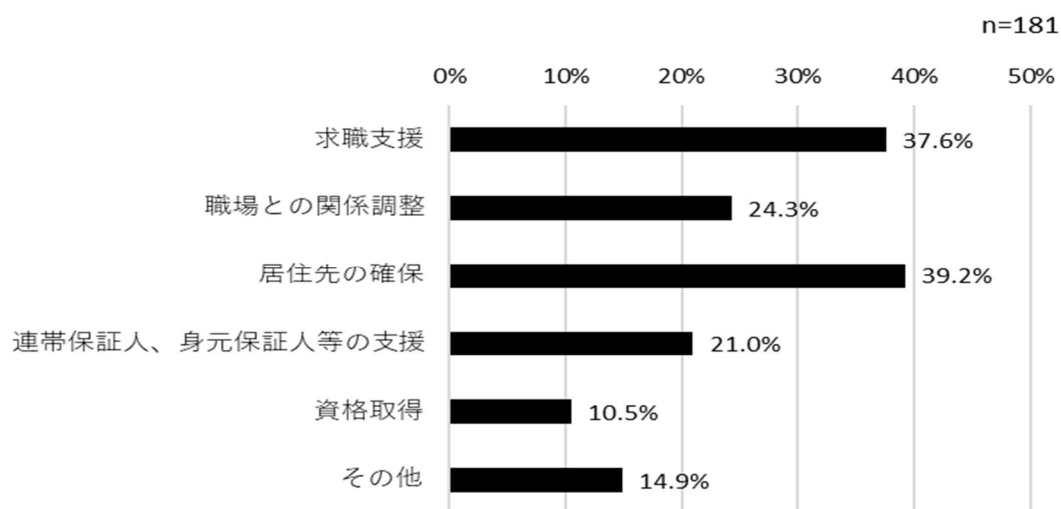
図表 142 退所前に施設等から受けた支援（複数回答）（施設等の種類別）



② 就職活動に際して、施設等から受けた支援

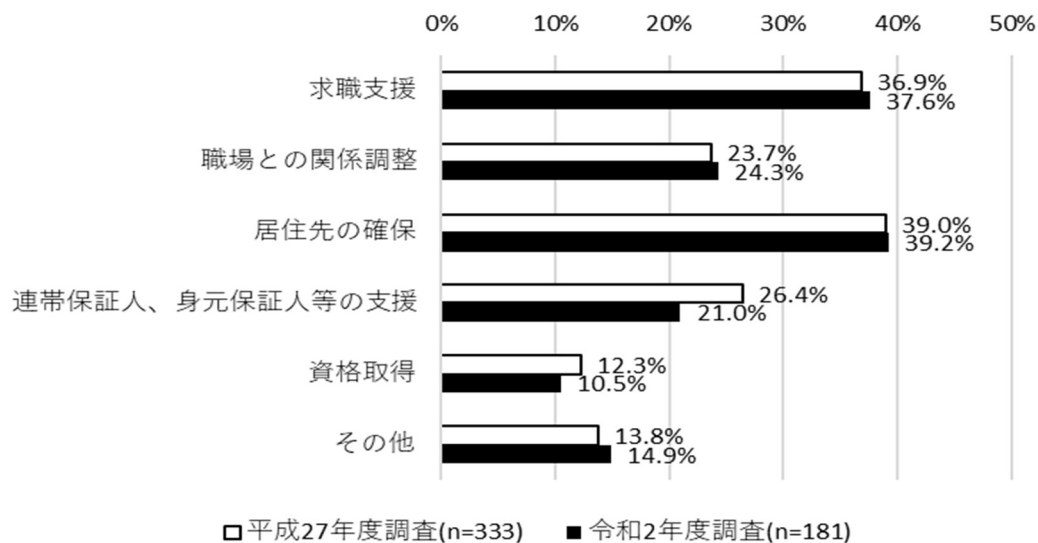
退所直後の進路について「就職」または「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人にたずねたところ、「居住先の確保」の割合が最も高く 39.2%となっている。次いで、「求職支援（37.6%）」、「職場との関係調整（24.3%）」となっている。

図表 143 就職活動に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「就職」または「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人）（複数回答）



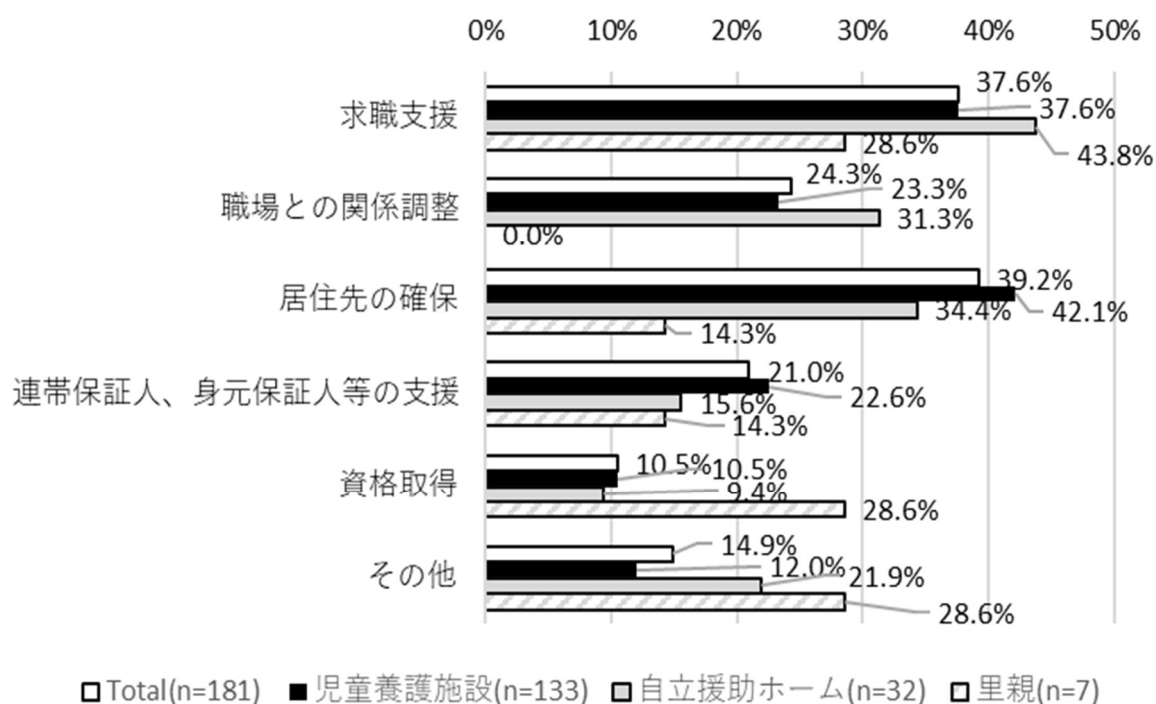
前回調査と比較すると、大きな変化は見られない。

図表 144 就職活動に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「就職」または「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人）（複数回答）（前回調査との比較）



施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「居住先の確保」が42.1%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「求職支援」が43.8%と最も割合が高くなっている。「里親」では「求職支援」、「資格取得」、「その他」が28.6%と最も割合が高くなっている。

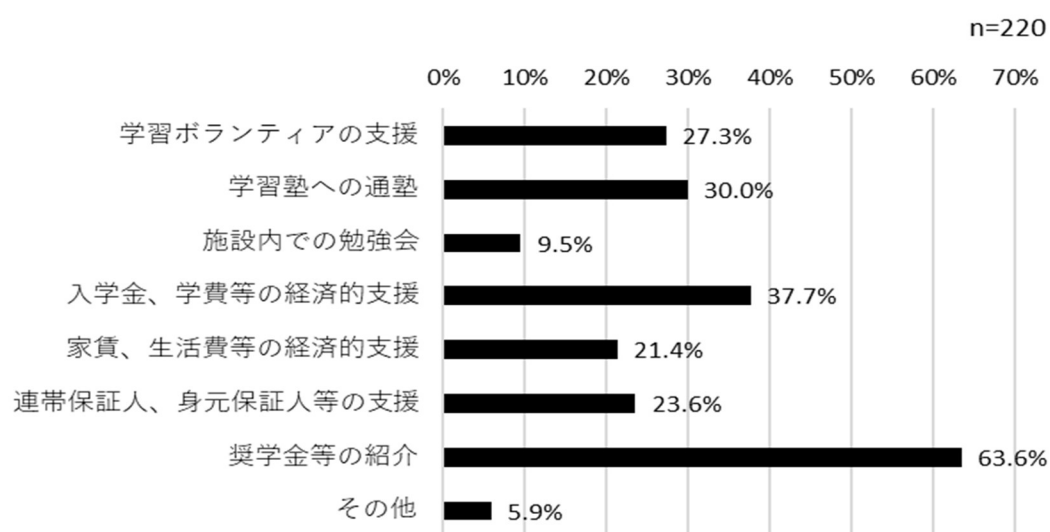
図表 145 就職活動に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「就職」または「当時働いていた職場に引き続き就労」を回答した人）（複数回答）
（施設等の種別別）



③ 進学に際して、施設等から受けた支援

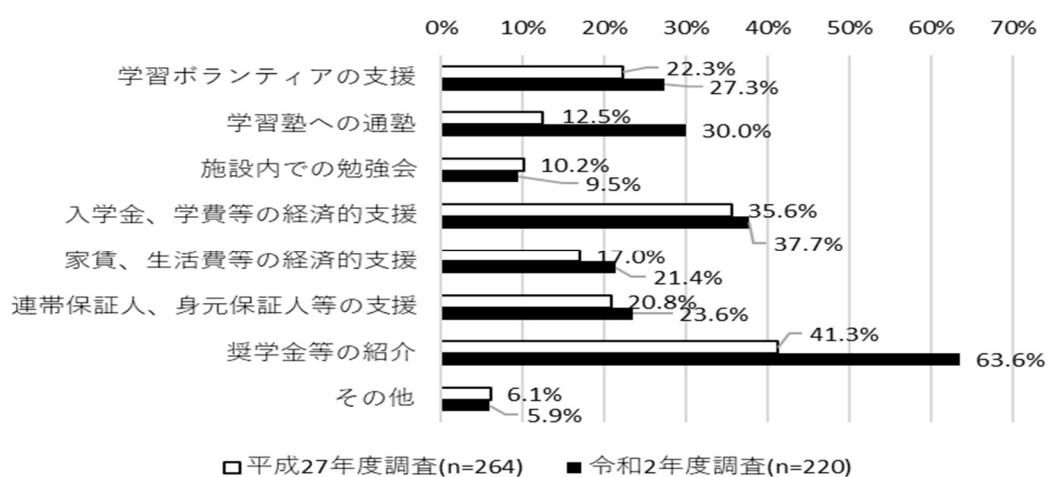
退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人にたずねたところ、「奨学金等の紹介」の割合が最も高く 63.6%となっている。次いで、「入学金、学費等の経済的支援（37.7%）」、「学習塾への通塾（30.0%）」となっている。

図表 146 進学に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人）（複数回答）



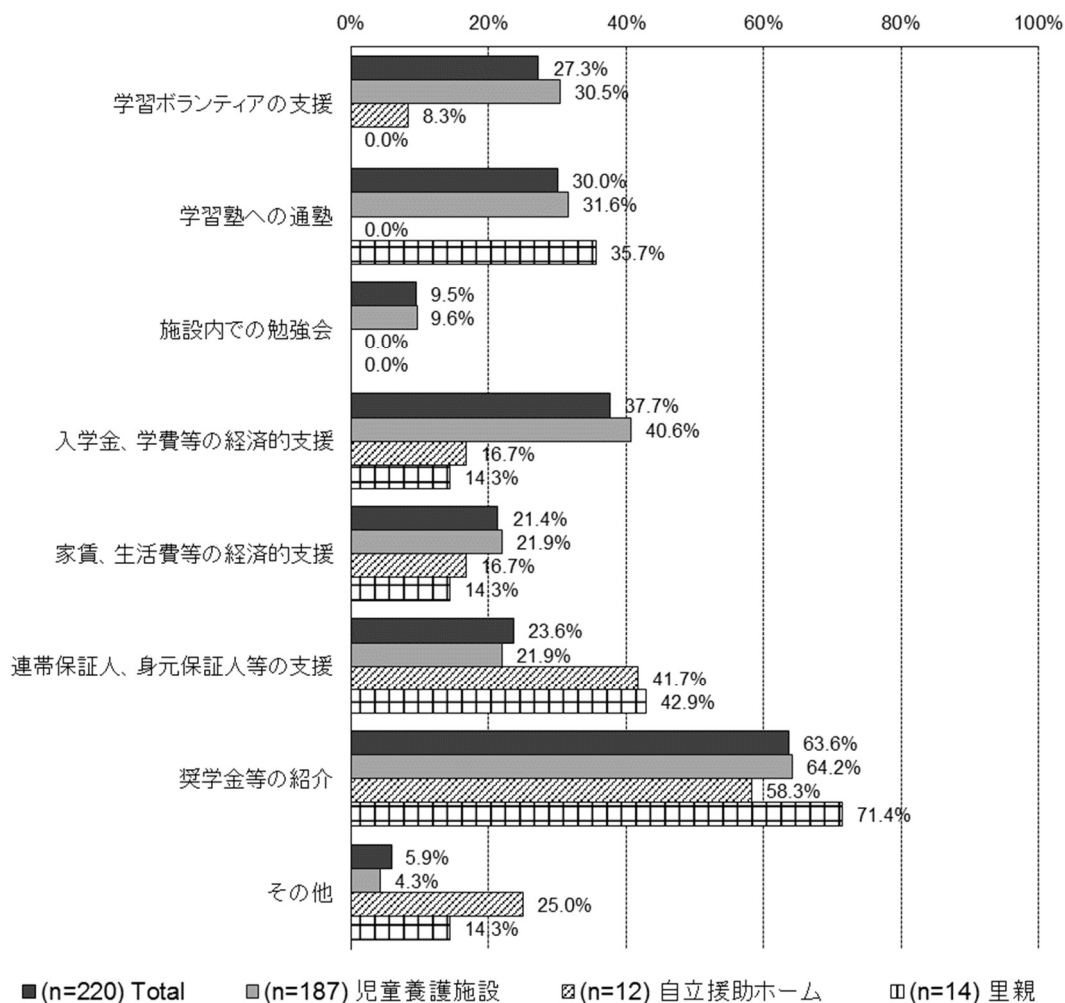
前回調査と比較すると、「奨学金等の紹介」は41.3%から63.6%と22.3ポイント増加、「学習塾への通塾」は12.5%から30.0%と17.5ポイント増加している。

**図表 147 進学に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人）（複数回答）
（前回調査との比較）**



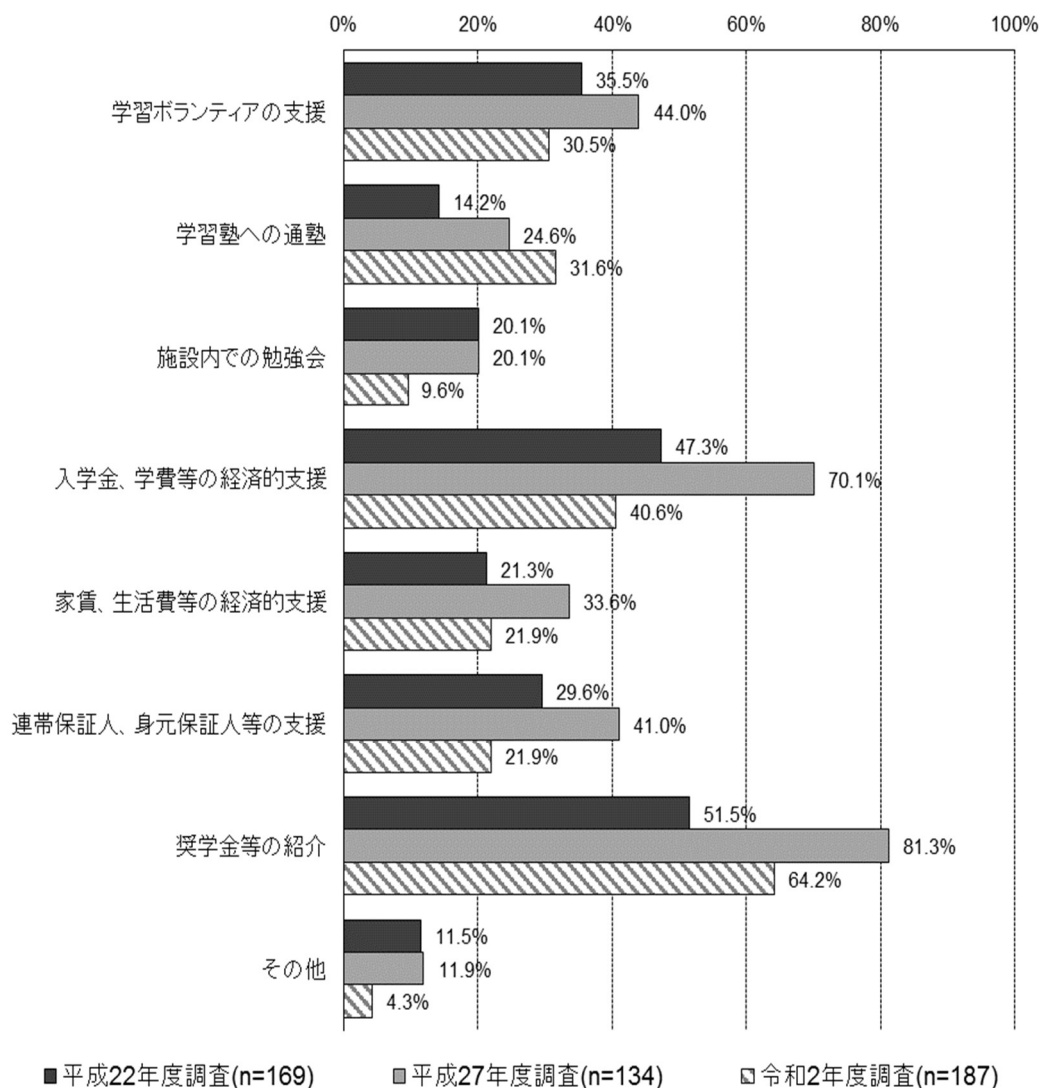
施設の種別別にみると、いずれも「奨学金等の紹介」の割合が最も高く、「児童養護施設」では64.2%、「自立援助ホーム」では58.3%、「里親」では71.4%となっている。

図表 148 進学に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人）（複数回答）
（施設等の種別別）



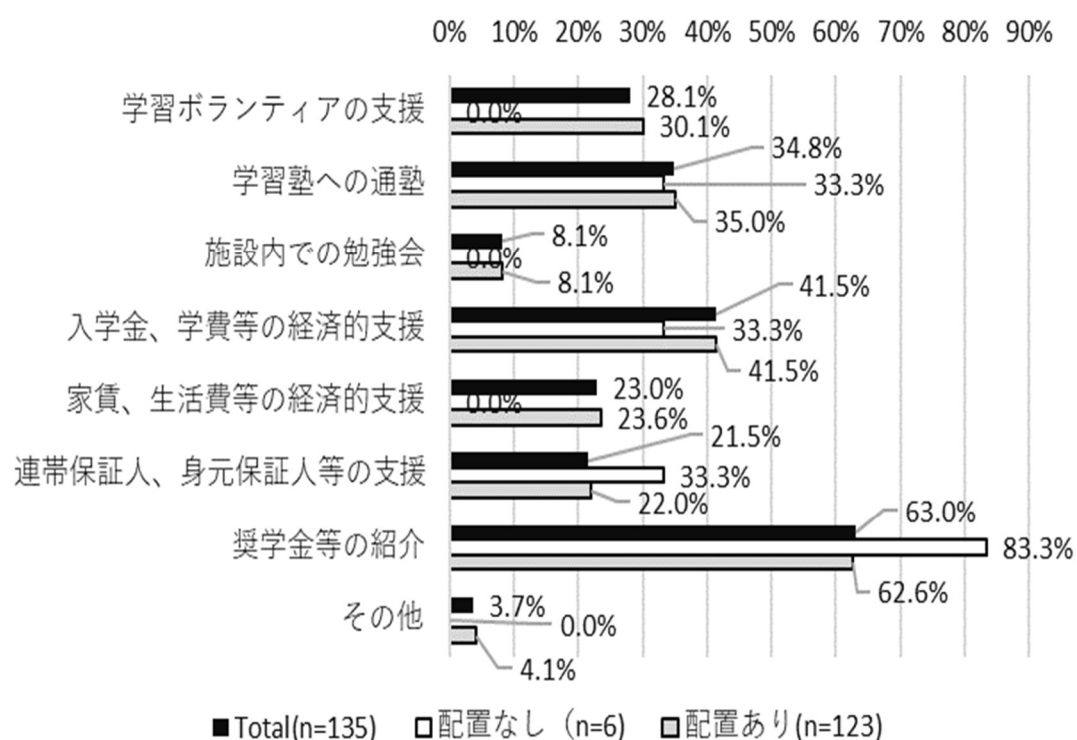
児童養護施設について、前回調査と比較すると、「学習塾への通塾」が24.6%から31.6%と7.0ポイント増加している。

図表 149 進学に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人）（複数回答）
（前回調査との比較）（児童養護施設のみ）



自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「奨学金等の紹介」の割合が最も高く、「配置なし」では83.3%、「配置あり」では62.6%となっている。

図表 150 進学に際して、施設等から受けた支援（退所直後の進路について「進学」または「当時通っていた学校に引き続き進学」を回答した人）（複数回答）（自立支援コーディネーター配置状況別）（民間児童養護施設・平成25年度以降退所者のみ）

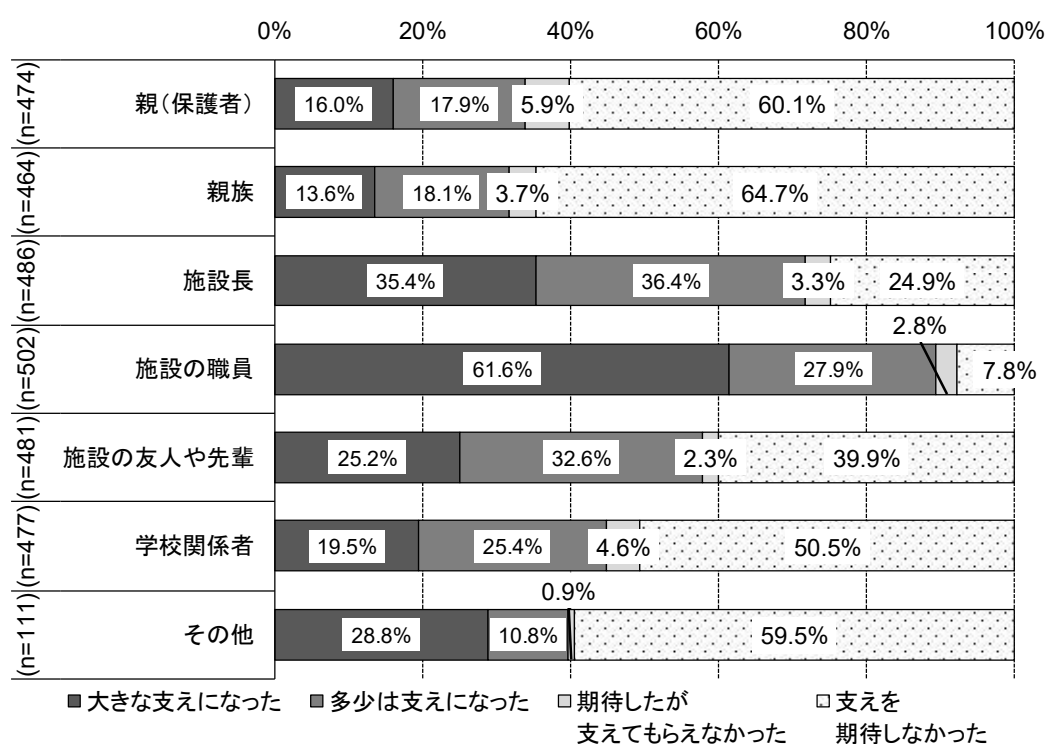


（７）退所に際し支えになった人

① 最後に生活した施設等で「里親」を回答した人以外

「大きな支えになった」と「多少は支えになった」の割合の合計に着目すると、「施設の職員」における割合が最も高く 89.5%となっている。次いで、「施設長（71.8%）」、「施設の友人や先輩（57.8%）」となっている。

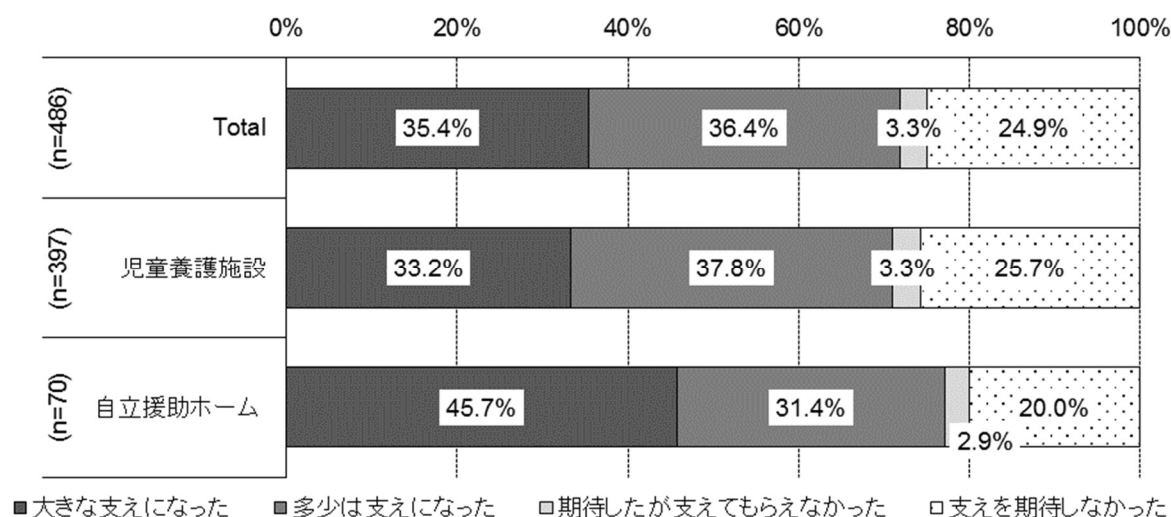
図表 151 退所に際し支えになった人
(最後に生活した施設等で「里親」を回答した人以外)



(注)「その他」として、「友人」、「交際相手」、「家族・親族」、「支援団体」、「職場の人」、「児童相談所」などが挙げられた。

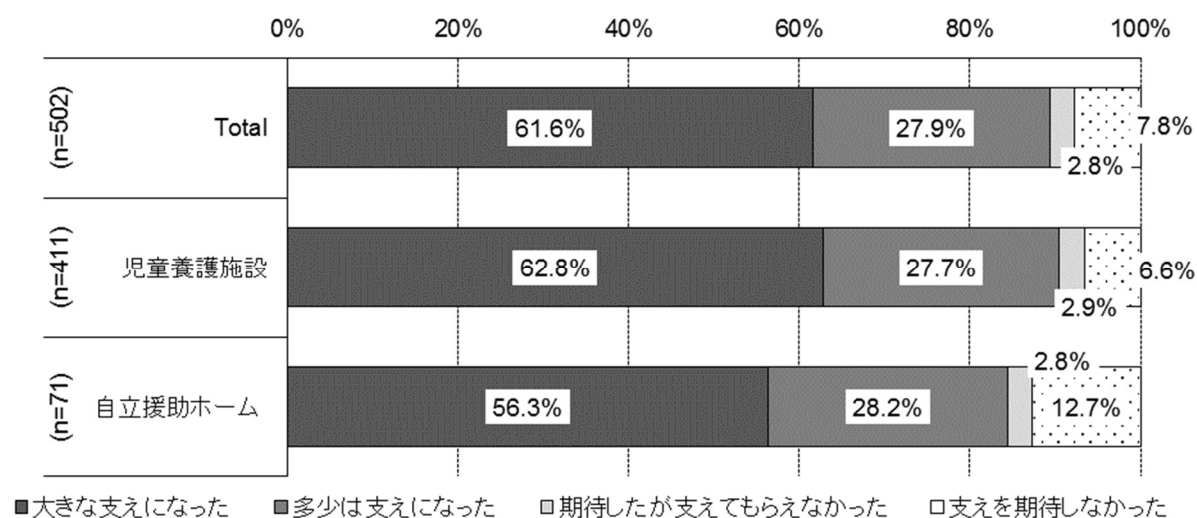
退所に際し支えになった人のうち「施設長」について、施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「多少は支えになった」が37.8%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」では「大きな支えになった」が45.7%と最も割合が高くなっている。

図表 152 退所に際し支えになった人「施設長」（最後に生活した施設等で「里親」を回答した人以外）（施設等の種別別）



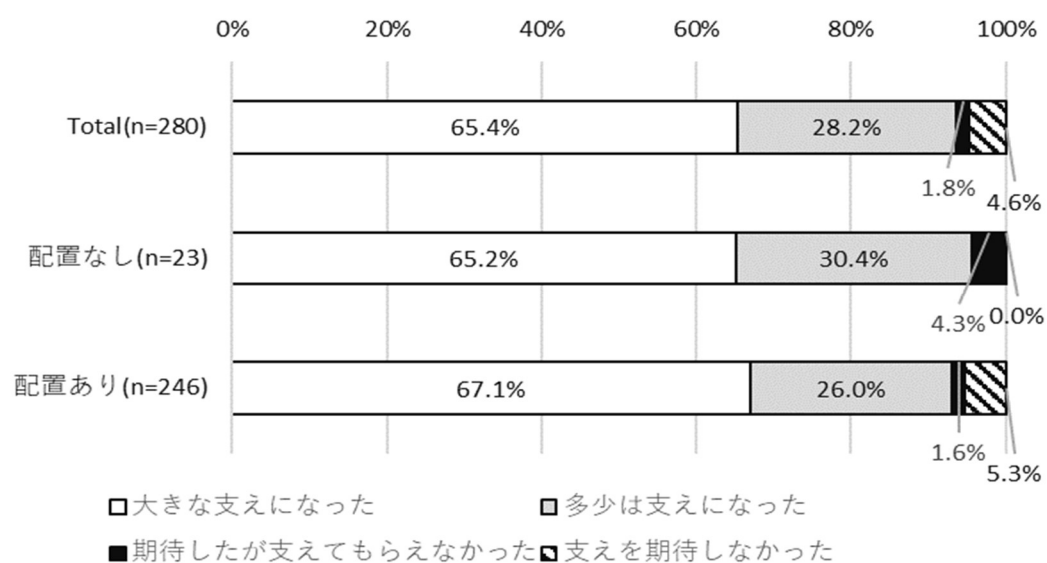
退所に際し支えになった人のうち「施設の職員」について、施設の種別別にみると、いずれも「大きな支えになった」の割合が最も高く、「児童養護施設」では62.8%、「自立援助ホーム」では56.3%となっている。

図表 153 退所に際し支えになった人「施設の職員」（最後に生活した施設等で「里親」を回答した人以外）（施設等の種別別）



退所に際し支えになった人のうち「施設の職員」について、自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「大きな支えになった」の割合が最も高く、「配置なし」では 65.2%、「配置あり」では 67.1%となっている。

図表 154 退所に際し支えになった人「施設の職員」(最後に生活した施設等で「里親」を回答した人以外)(自立支援コーディネーター配置状況別)
(民間児童養護施設・平成 25 年度以降退所者のみ)

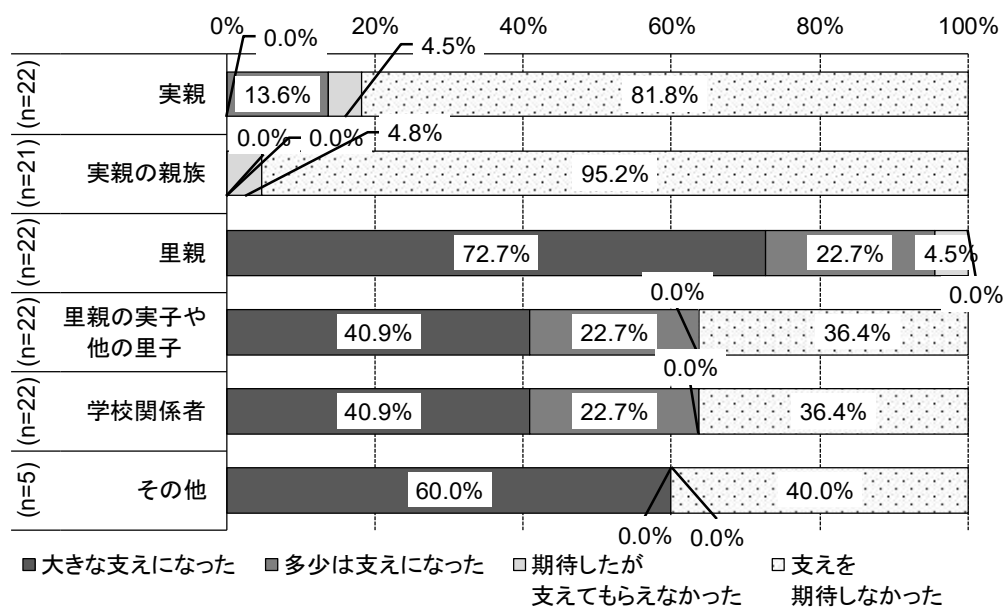


(注) 前回調査(平成 27 年度)では、自立支援コーディネーターの配置施設 (n=123) では、「大きな支えになった」が 61.0%、「多少は支えになった」が 28.5%、「期待したが支えてもらえなかった」が 2.4%、「支えを期待しなかった」が 8.1%であった。

② 最後に生活した施設等で「里親」を回答した人

「大きな支えになった」と「多少は支えになった」の割合の合計に着目すると、「里親」における割合が最も高く 95.4%となっている。次いで、「里親の実子や他の里子（63.6%）」「学校関係者（63.6%）」、「実親（13.6%）」となっている。

図表 155 退所に際し支えになった人
(最後に生活した施設等で「里親」を回答した人)

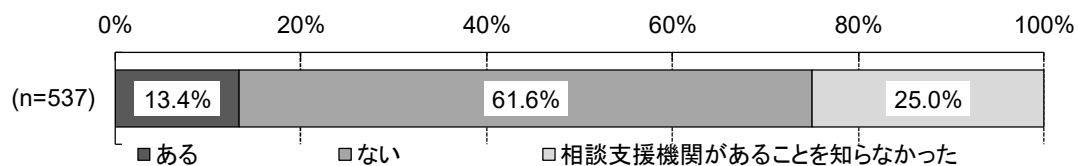


(注)「その他」として、「友人」、「児童相談所職員」が挙げられた。

(8) 施設等退所者の相談支援機関の認知・利用状況

「ない」の割合が最も高く 61.6%となっている。次いで、「相談支援機関があることを知らなかった（25.0%）」、「ある（13.4%）」となっている。

図表 156 施設等退所者の相談支援機関の認知・利用状況

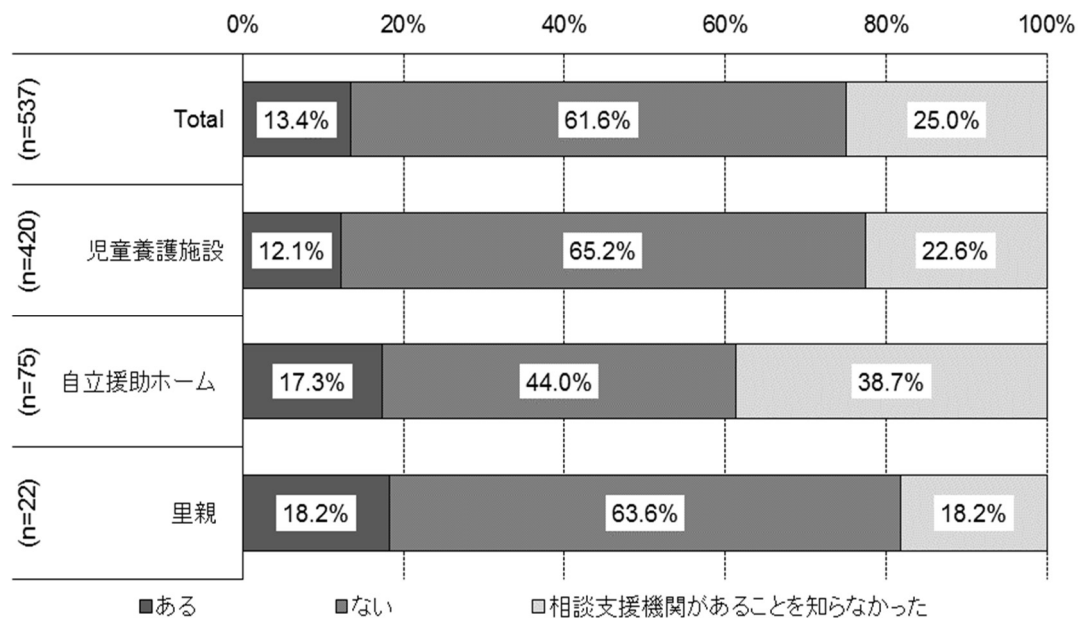


(注1) 前回調査（平成 27 年度）では、施設出身者等のための相談支援機関の利用状況についてたずねたところ、「ある」が 8.4%、「ない」が 91.6%であった（n=618）。

(注2) 前回調査（平成 27 年度）では、施設出身者等のための相談支援機関の認知状況についてたずねたところ、「知っている」が 33.4%、「知らない」が 66.6%であった（n=616）。

施設の種別別にみると、いずれも「ない」の割合が最も高く、「児童養護施設」では65.2%、「自立援助ホーム」では44.0%、「里親」では63.6%となっている。

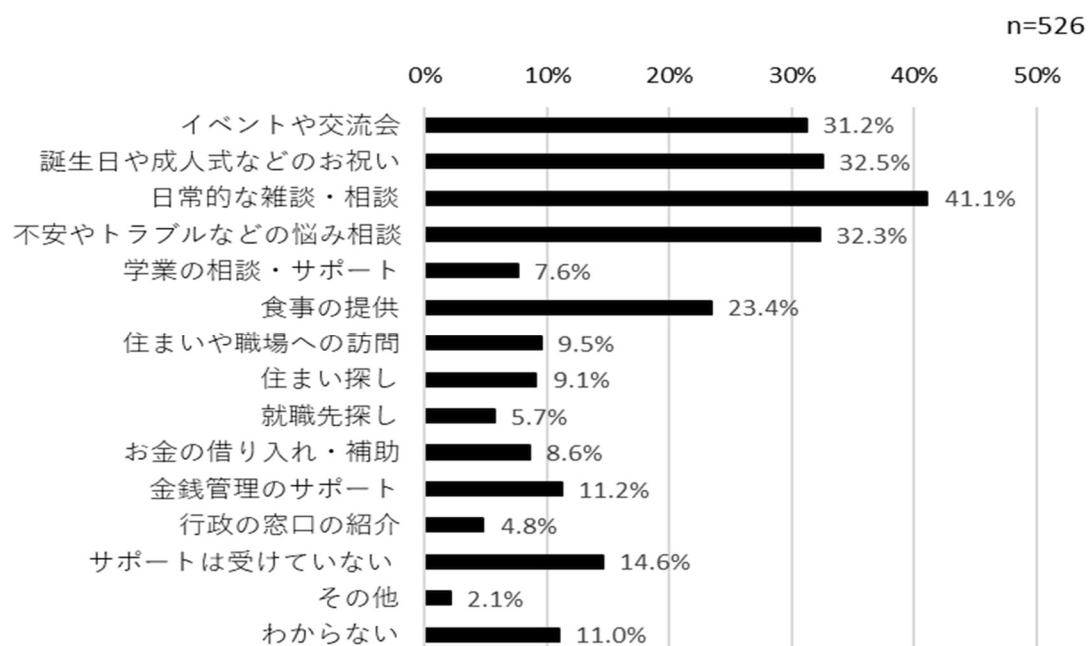
図表 157 施設等退所者の相談支援機関の認知・利用状況（施設等の種別別）



（９）退所後に、施設等や公的な相談支援機関から受けた支援

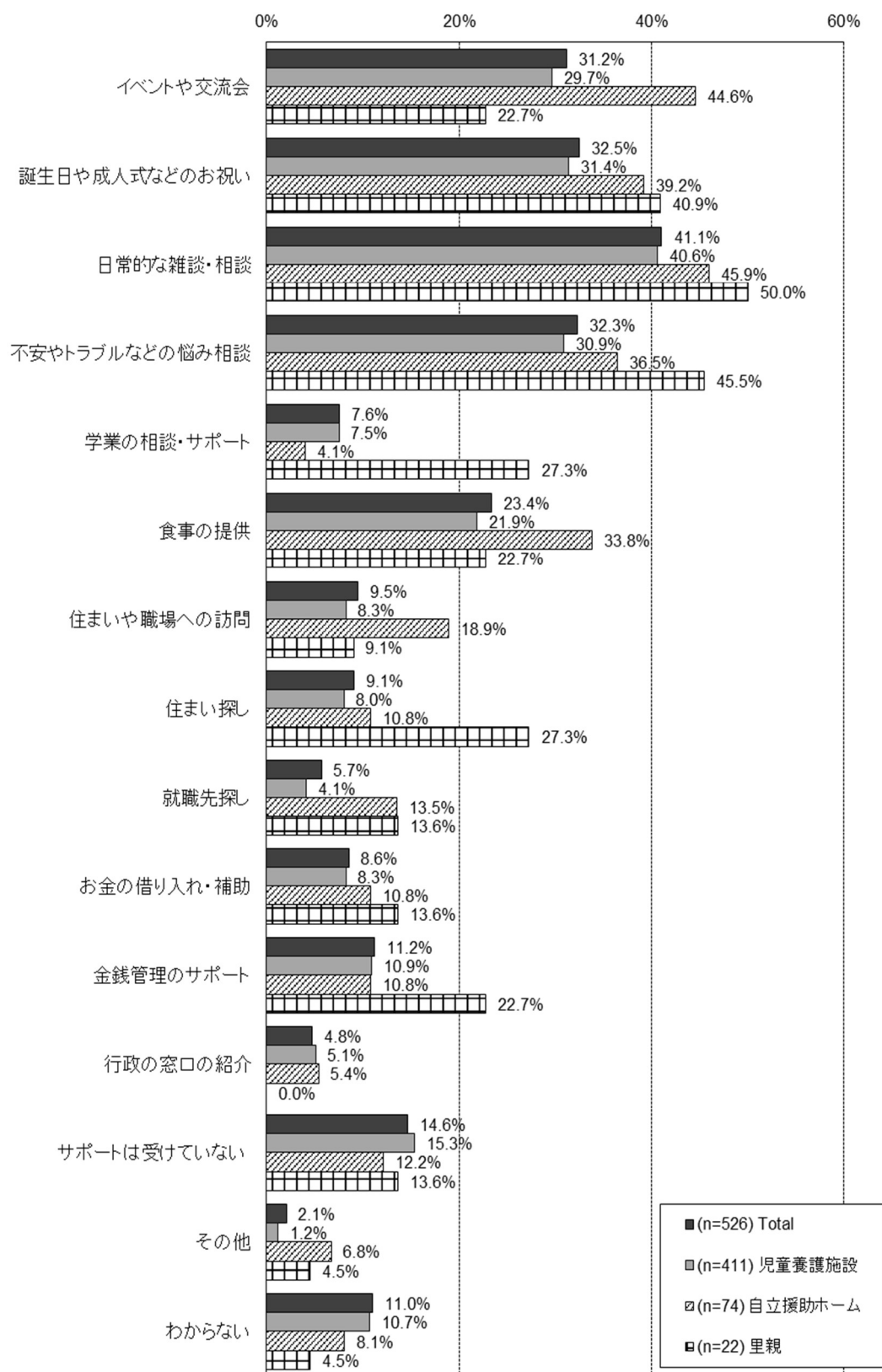
「日常的な雑談・相談」の割合が最も高く 41.1%となっている。次いで、「誕生日や成人式などのお祝い（32.5%）」、「不安やトラブルなどの悩み相談（32.3%）」となっている。

図表 158 退所後に、施設等や公的な相談支援機関から受けた支援（複数回答）



施設の種類別にみると、いずれも「日常的な雑談・相談」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 40.6%、「自立援助ホーム」では 45.9%、「里親」では 50.0%となっている。

図表 159 退所後に、施設等や公的な相談支援機関から受けた支援（複数回答）
（施設等の種類別）



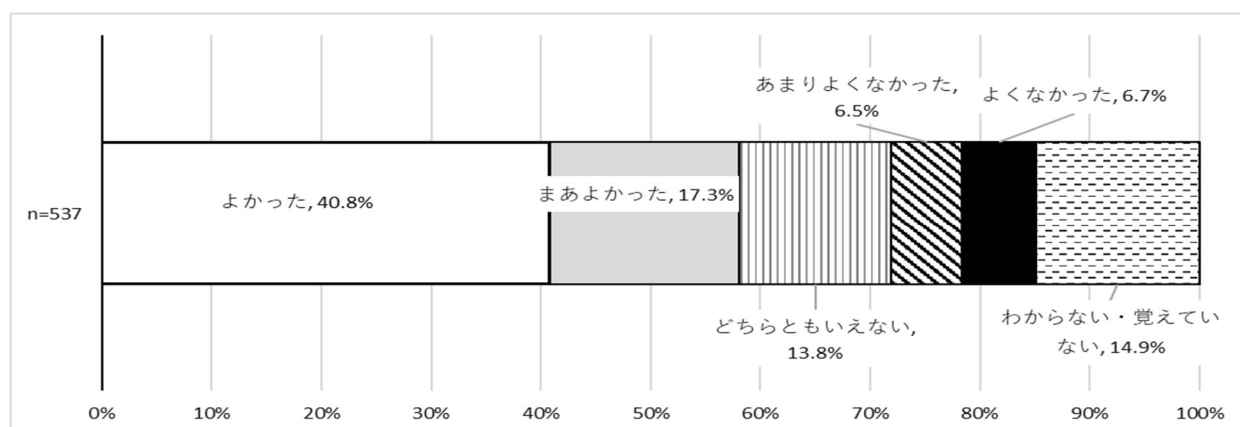
(10) これまでの支援等に対する評価

① 児童相談所の職員の対応

「よかった」の割合が最も高く 40.8%となっている。次いで、「まあよかった (17.3%)」、「わからない・覚えていない (14.9%)」となっている。

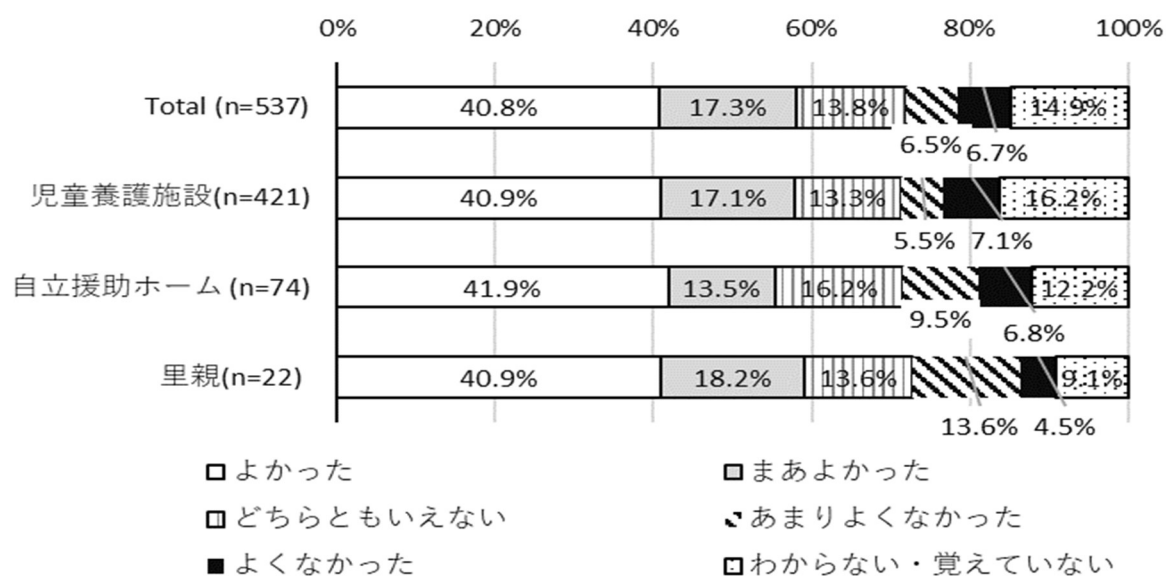
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ (図表 177) 参照。

図表 160 児童相談所の職員の対応に対する評価



施設の種類別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 40.9%、「自立援助ホーム」では 41.9%、「里親」では 40.9%となっている。

図表 161 児童相談所の職員の対応に対する評価 (施設等の種類別)

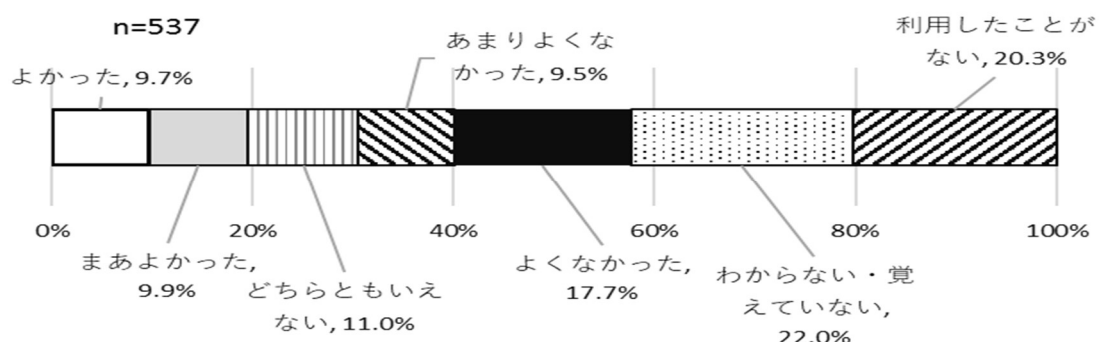


② 一時保護所の職員の対応

「わからない・覚えていない」の割合が最も高く 22.0%となっている。次いで、「利用したことがない (20.3%)」、「よくなかった (17.7%)」となっている。

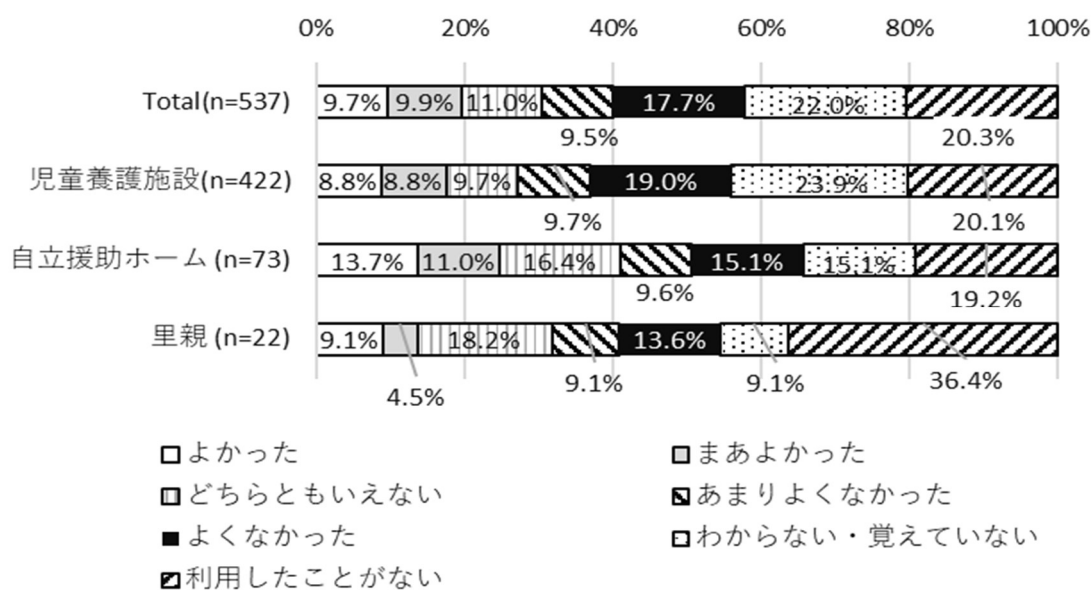
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ (図表 177) 参照。

図表 162 一時保護所の職員の対応に対する評価



施設の種別別にみると、「児童養護施設」では「わからない・覚えていない」が 23.9%と最も割合が高くなっている。「自立援助ホーム」及び「里親」ではいずれも「利用したことがない」の割合が最も高く、「自立援助ホーム」では 19.2%、「里親」では 36.4%となっている。

図表 163 一時保護所の職員の対応に対する評価 (施設等の種別別)

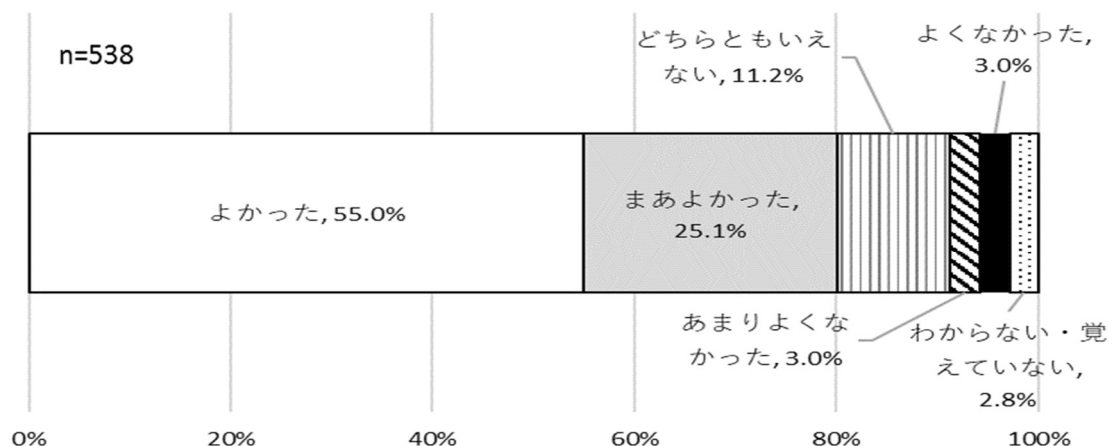


③ 施設等での生活・施設職員等の対応

「よかった」の割合が最も高く 55.0%となっている。次いで、「まあよかった (25.1%)」、「どちらともいえない (11.2%)」となっている。

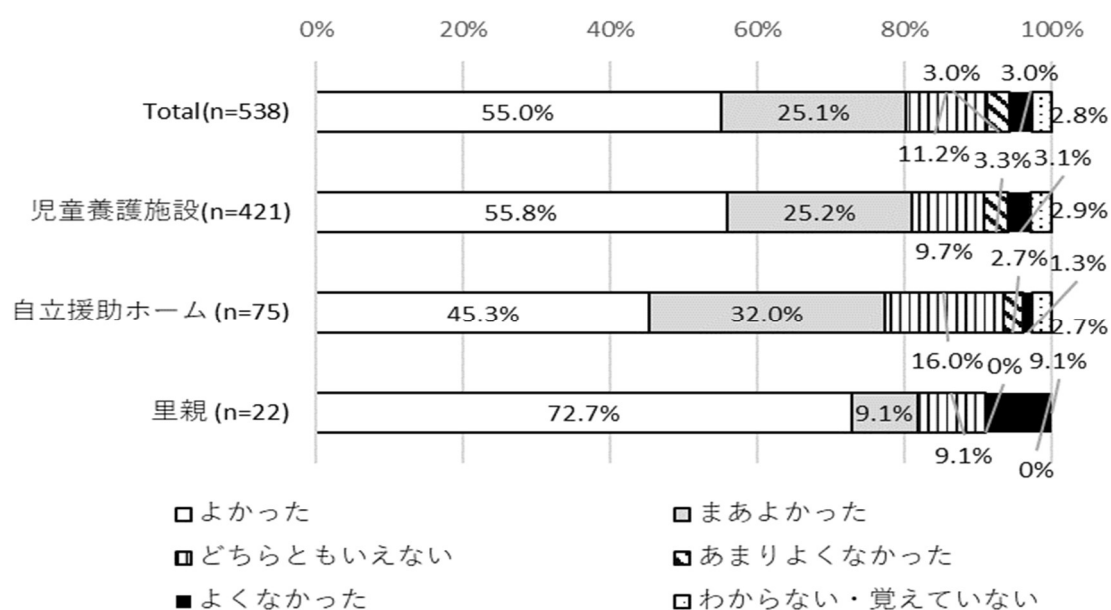
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ (図表 177) 参照。

図表 164 施設等での生活・施設職員等の対応に対する評価



施設の種類別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 55.8%、「自立援助ホーム」では 45.3%、「里親」では 72.7%となっている。

図表 165 施設等での生活・施設職員等の対応に対する評価 (施設等の種類別)

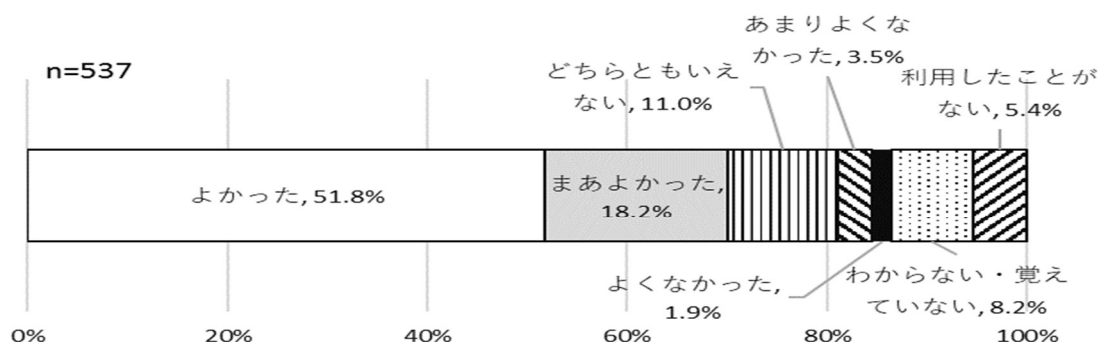


④ 退所に向けたサポート

「よかった」の割合が最も高く 51.8%となっている。次いで、「まあよかった (18.2%)」、「どちらともいえない (11.0%)」となっている。

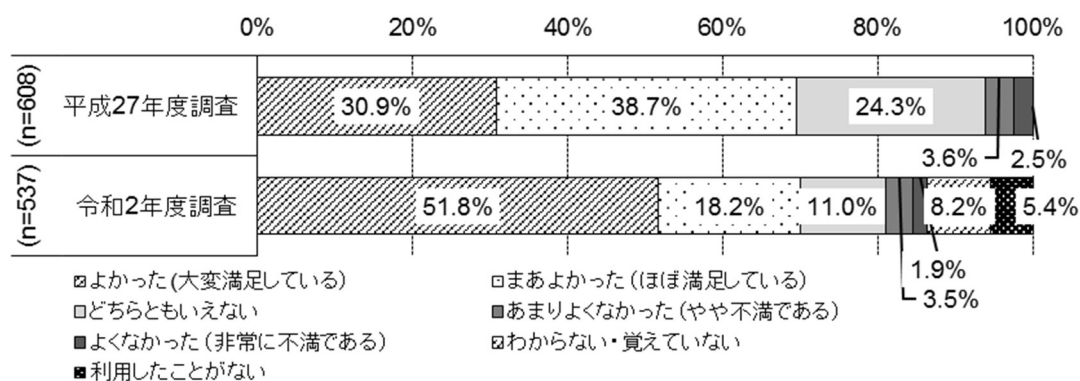
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ (図表 177) 参照。

図表 166 退所に向けたサポートに対する評価



前回調査と比較すると、「よかった」が 30.9%から 51.8%と 20.9 ポイント増加している。

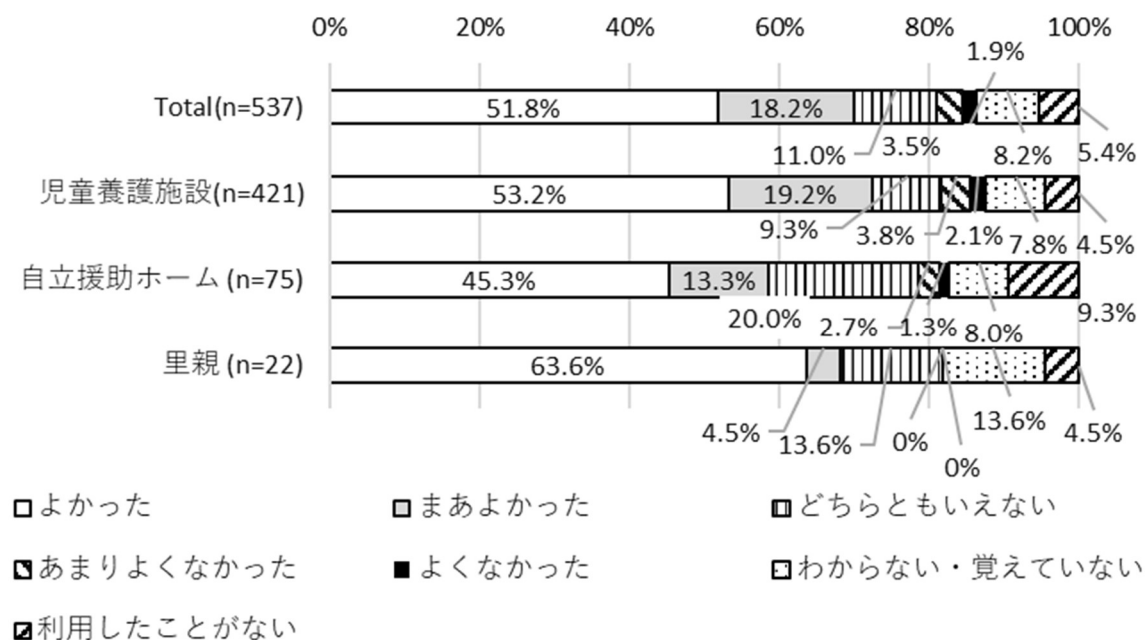
図表 167 退所に向けたサポートに対する評価 (前回調査との比較)



(注) 前回調査では、「非常に不満である」「やや不満である」「どちらともいえない」「ほぼ満足している」「大変満足している」の5段階でたずねた。今回調査では、「よくなかった」「あまりよくなかった」「どちらともいえない」「まあよかった」「よかった」の5段階に加え、「わからない・覚えていない」「利用したことがない」を設置してたずねた。

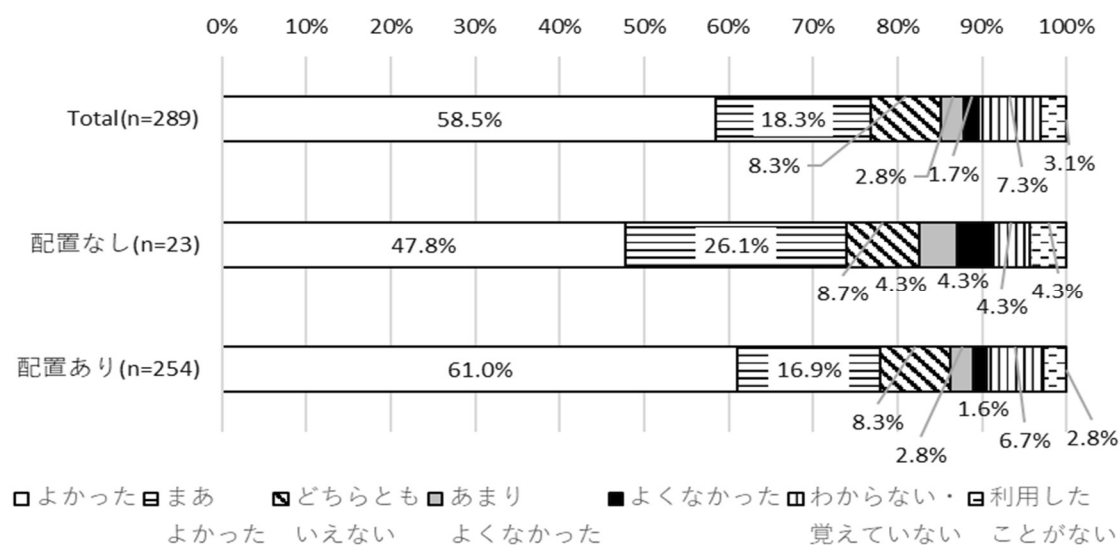
施設の種類の別に見ると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「児童養護施設」では 53.2%、「自立援助ホーム」では 45.3%、「里親」では 63.6%となっている。

図表 168 退所に向けたサポートに対する評価（施設等の種類別）



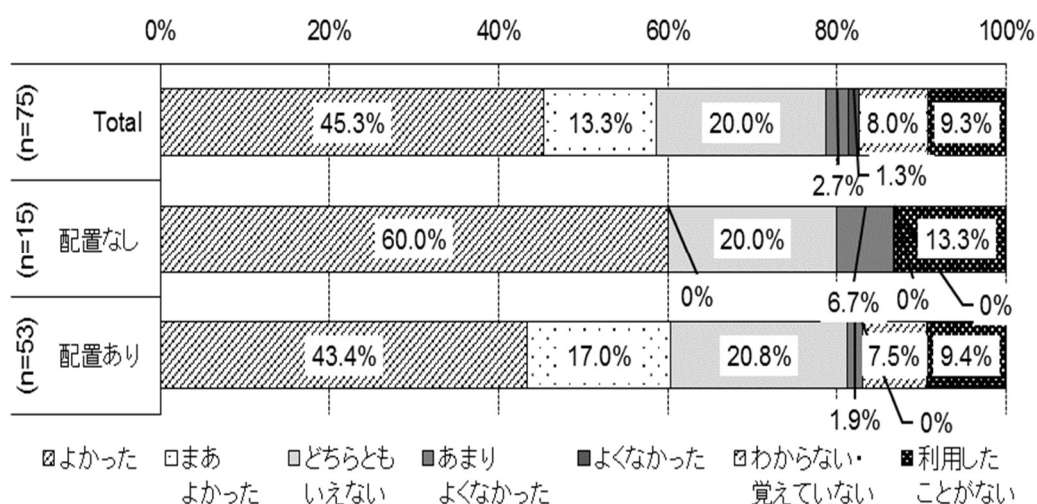
自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「配置なし」では 47.8%、「配置あり」では 61.0%となっている。

図表 169 退所に向けたサポートに対する評価（自立支援コーディネーター配置状況別）（民間児童養護施設・平成 25 年度以降退所者のみ）



ジョブ・トレーナーの配置状況別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「配置なし」では60.0%、「配置あり」では43.4%となっている。また、「よくなかった」と「あまりよくなかった」と回答した割合をみると、「配置なし」は6.7%に対し、「配置あり」は1.9%となっている。

図表 170 退所に向けたサポートに対する評価（ジョブ・トレーナー配置状況別）（自立援助ホームのみ）

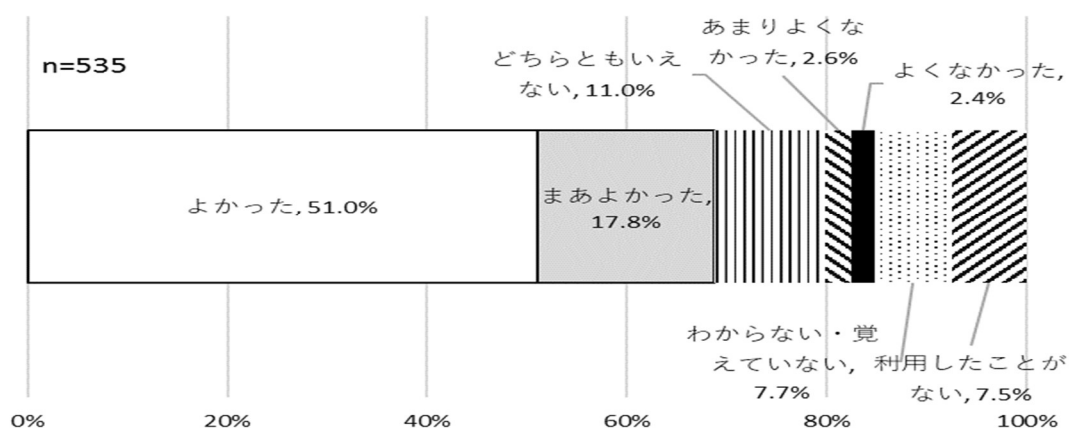


⑤ 退所後の施設等からのサポート

「よかった」の割合が最も高く 51.0%となっている。次いで、「まあよかった（17.8%）」、「どちらともいえない（11.0%）」となっている。

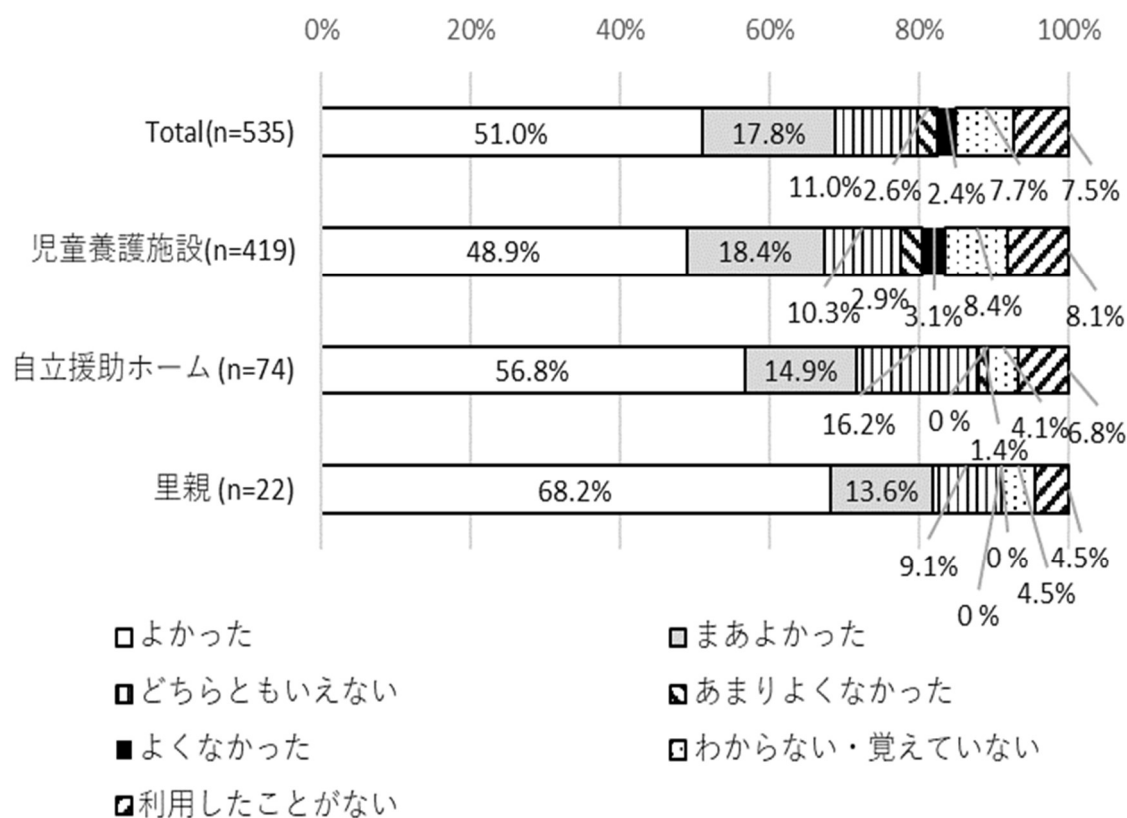
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ（図表 177）参照。

図表 171 退所後の施設等からのサポートに対する評価



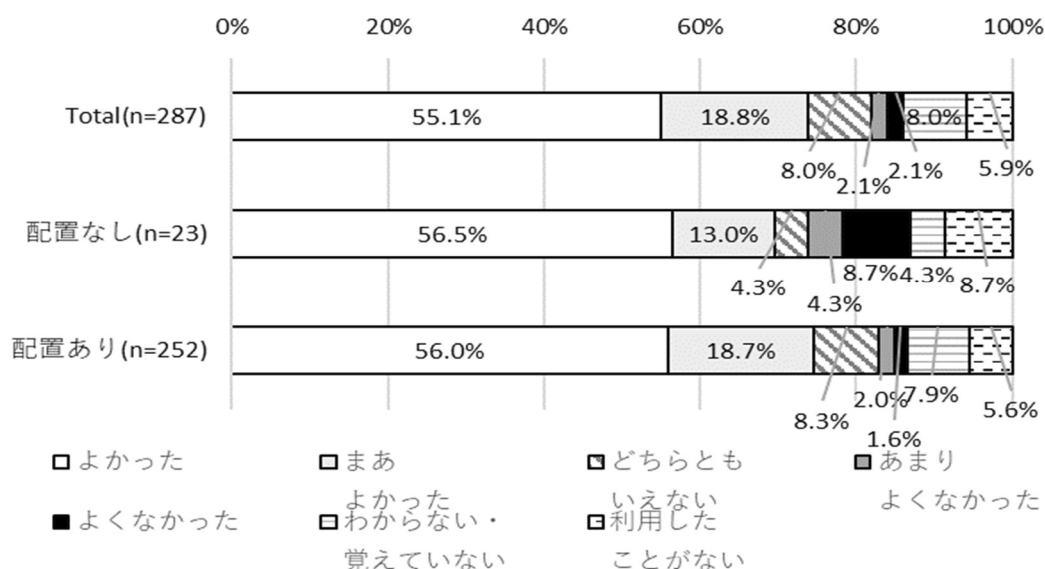
施設の種類別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「児童養護施設」では48.9%、「自立援助ホーム」では56.8%、「里親」では68.2%となっている。

図表 172 退所後の施設等からのサポートに対する評価（施設等の種類別）



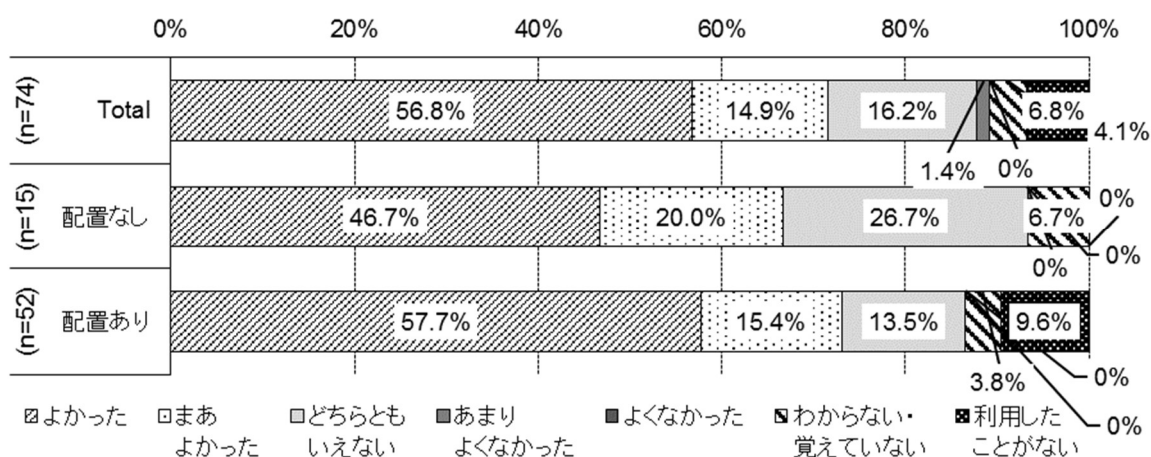
自立支援コーディネーターの配置状況別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「配置なし」では56.5%、「配置あり」では56.0%となっている。

図表 173 退所後の施設等からのサポートに対する評価（自立支援コーディネーター配置状況別）（民間児童養護施設・平成25年度以降退所者のみ）



ジョブ・トレーナーの配置状況別にみると、いずれも「よかった」の割合が最も高く、「配置なし」では46.7%、「配置あり」では57.7%となっている。

図表 174 退所後の施設等からのサポートに対する評価（ジョブ・トレーナー配置状況別）（自立援助ホームのみ）

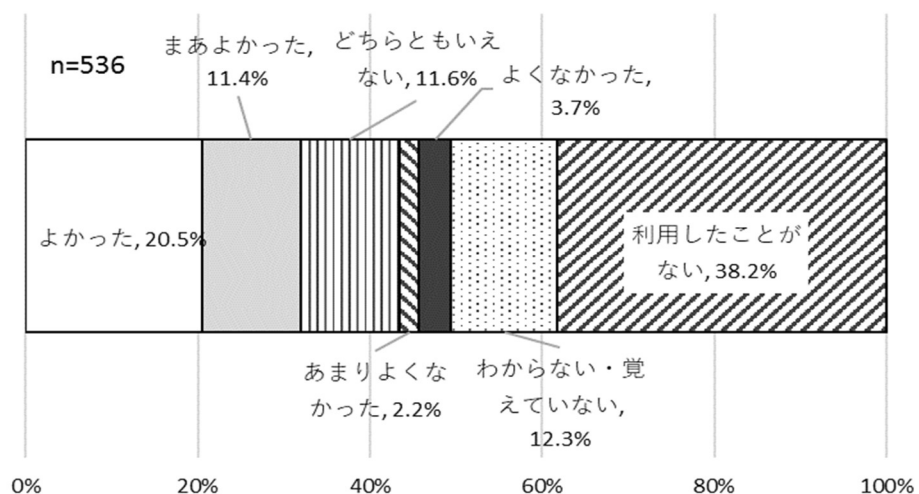


⑥ 退所後の施設等以外からのサポート

「利用したことがない」の割合が最も高く 38.2%となっている。次いで、「よかった (20.5%)」、「わからない・覚えていない (12.3%)」となっている。

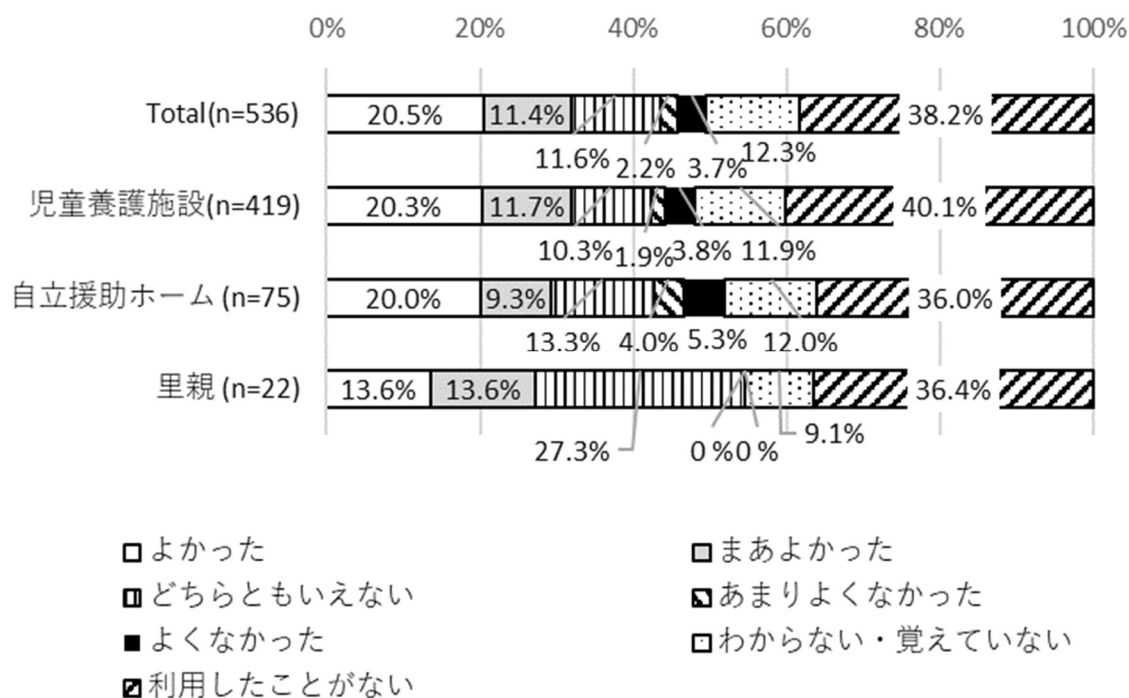
また、特によかったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は、114 ページ (図表 177) 参照。

図表 175 退所後の施設等以外からのサポートに対する評価



施設の種類の別みると、いずれも「利用したことがない」の割合が最も高く、「児童養護施設」では40.1%、「自立援助ホーム」では36.0%、「里親」では36.4%となっている。

図表 176 退所後の施設等以外からのサポートに対する評価（施設等の種類別）



⑦ これまでの支援について、特に良かったこと・今後改善したらいいと思うこと

これまでの支援について、特に良かったことや、今後改善したらいいと思うことを自由記述式でたずねた。主な意見は以下の通り。

図表 177 特に良かったこと・今後改善したらよいこと（自由記述式）

◆児童相談所について

- ・ 担当の人によって対応の差がありすぎて、児相の方が終わっていると自分の今後が終わってしまうので丁寧な対応をして欲しいなと心から強く思いました。
- ・ 児童相談所の職員に関しては担当者が数年で変わってしまう事が多い。安心できなかった。児童からすると突然で驚いてしまうため、変わる前に丁寧に説明する必要がある。また以前の担当者と新しい担当者を顔合わせて引き継ぐ方が良い。今の制度では難しいと思いますが、措置される先を選択できるようにしたい。今では理解できるようになったが、ケースワーカーは自分にとって何をする役割なのかを丁寧に説明する必要がある。

◆一時保護所について

- ・ 基本的にはしっかりと相談や対応をしてくれるが、幼児や小学生が多い保護所だと相談の時間が少なく、怒鳴り声を上げる職員や泣いている幼児も常時いるため、初めてくる子は不安や恐怖を感じると思う。
- ・ 何ヶ所もいった為場所によってはほんとに辛い場所もあった。
- ・ 養護施設はそこまで嫌な思いをした記憶がないですが、一時保護所に関しては今でも思い出すと嫌な気持ちになります。中には悪いことをして一時保護されている人もいたから仕方ないのかもしれませんが、親などからの虐待から保護された側としては辛い思いをして来たのにまるで囚人かのような扱いで閉じ込められた気分でした。個人情報も守る上である程度の決まりがあるのは良いと思いますが、あの環境は流石に酷いので改善すべきかと。

◆施設等での生活・施設職員等の対応

- ・ 子供たちと同じ目線になって関わってくれた。
- ・ 家族同然。親身な相談を常に聞いてくれた。
- ・ 子どものことを第一に考えてくれる施設で生活させてもらえたと思う。
- ・ 当時お世話になっていた職員のほとんどが本気で向き合い丁寧に接してくださった。
- ・ 施設の職員には今後も元気な姿を見せる事が恩返しと思える程度には施設の職員の方には感謝している。当時は自分自身多感であり衝突する事はあれど、子供1人1人としっかりと向き合ってくれるいい職員方だったと今になれば思う。
- ・ 出来て当たり前とかこの子なら大丈夫とか変な期待とかを押し付けずに、素直に分からないと言う子供には素直に教えてあげて欲しい。
- ・ 児童養護施設、自立援助ホームでの生活を経て、どちらの施設もすごく親身に相談事や学校での出来事など聞いてくれて、たまに友達のように楽しく生活できた！怒るときには怒り、きちんと言ってくれるのでありがたかった。

◆退所に向けたサポート

- ・ 自分の将来について、一緒に考えてくれたこと。
- ・ 私は大学進学だったので、職員の大学時代の体験談を聞かせてもらい具体的な生活の見立てが出来た。
- ・ 行政利用や自立後に利用が推測される機関の利用方法、金融について、インターネットについて、またそれらの注意点を具体的に指導頂きたかった。
- ・ もっと子供達と一緒に国の制度の事や色んな手続きの方法、就職、家探し、お金の使い方、一人暮らしのシミュレーションを具体的にしてほしい。退所後のシミュレーションを紙に書いて、分かりやすく説明・相談に乗ってあげてほしい。先の事を考えずに何となくで将来を考えてしまう子がいると思うから。

◆退所後の施設等からのサポート

- ・ 施設の職員が支えになっている。
- ・ 退所しても職員と連絡とって分からない事が聞けたり不安な事を相談出来るのがよかった。
- ・ 施設の職員の方々は、卒園後も良き相談相手として、親身になってくださいます。また、時々施設を訪れると、生活や進路について気にかけてくださるので、それだけで気持ちが楽になります
- ・ 施設と、社会は多少のギャップがあり、それを突きつけられた時のサポートが大切だと思う。あと、施設で生活している以上、人間関係の乏しさを解消できるサポートが必要だと思う
- ・ 退所後連絡が全くなかった。必要なときにどこに相談していいのかわからなかった。
- ・ 大学、専門学校卒業するまで、身寄りのない子供たちを退所させずに学生であるうちは入所させたまま面倒を見て欲しい。学費、生活費の面でも相当大変です。そのせいで進学したのに夢を諦めなきゃいけない子供たちが沢山います。

◆退所後の施設等以外からのサポート

- ・ 奨学金をいただいた先との関わりもあり、とても支えになった。

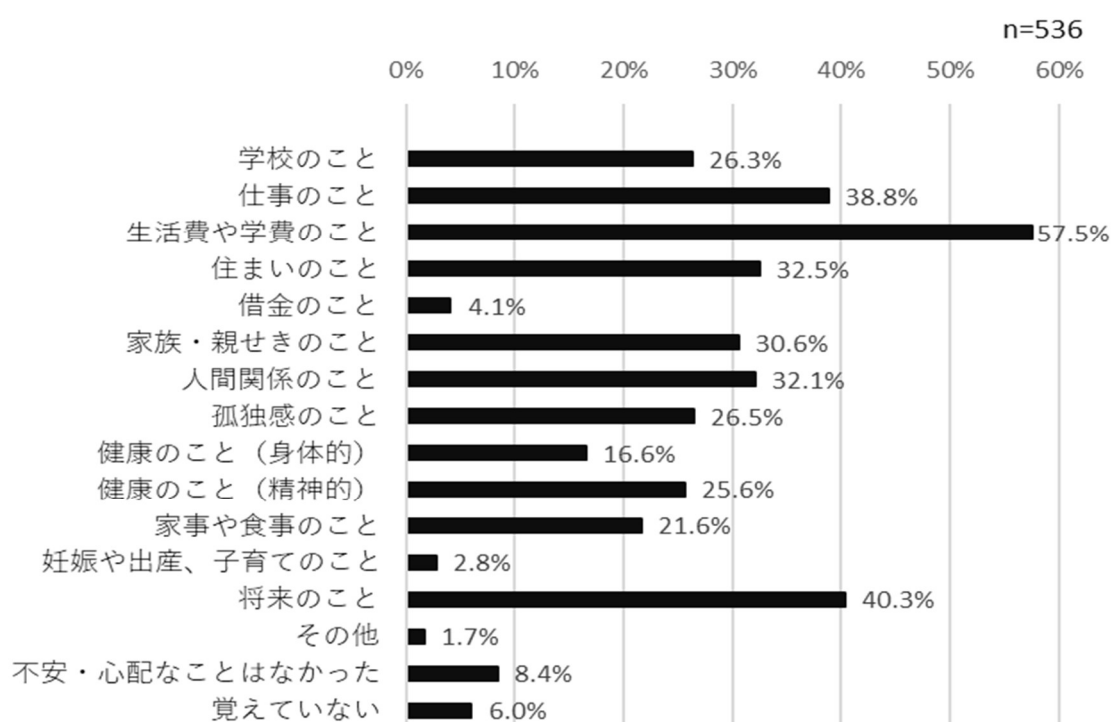
7. 公的な支援等への意見等

(1) 退所前に、退所に向けて不安だったこと・心配だったこと

「生活費や学費のこと」の割合が最も高く 57.5%となっている。次いで、「将来のこと (40.3%)」、「仕事のこと (38.8%)」となっている。

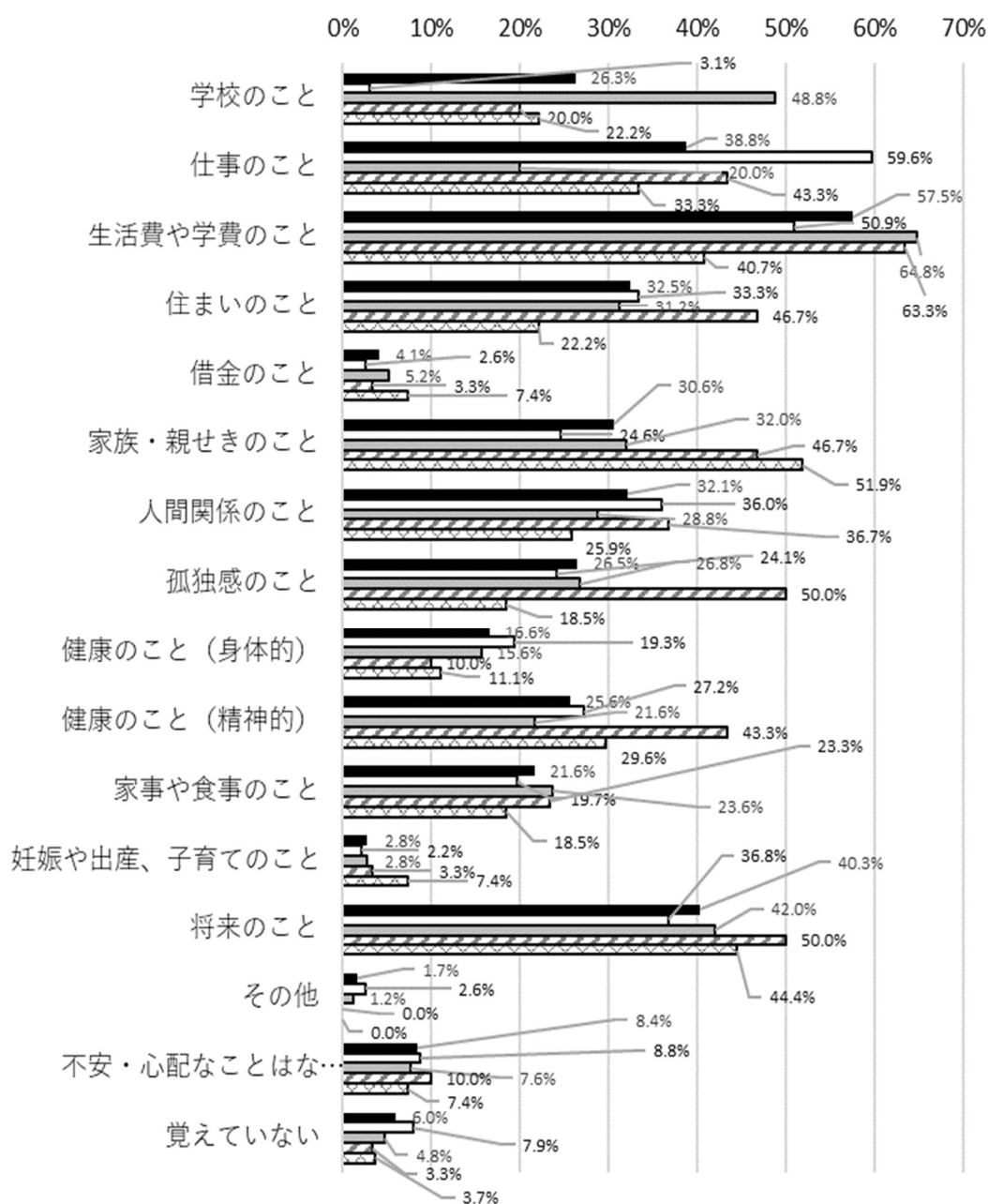
また、その具体的な内容について自由記述式でたずねた。主な意見は、119 ページ (図表 180) 参照。

図表 178 退所前に、退所に向けて不安だったこと・心配だったこと (複数回答)



退所直後の進路別にみると、「就職」では「仕事のこと」が59.6%と最も割合が高くなっている。「進学」では「生活費や学費のこと」が64.8%と最も割合が高くなっている。「未定だった」では「生活費や学費のこと」が63.3%と最も割合が高くなっている。「その他」では「家族・親せきのこと」が51.9%と最も割合が高くなっている。

図表 179 退所前に、退所に向けて不安だったこと・心配だったこと（複数回答）
（退所直後の進路別）



■ Total(n=536) □ 就職(n=228) ■ 進学(n=250) ▨ 未定だった(n=30) ▩ その他(n=27)